

第3次

高岡市地域福祉活動計画

(計画期間：令和3年度～令和8年度)

基本理念

みんなで支え合い、みんなが『あっかり』して
生活できる地域共生社会を目指して



社会福祉法人高岡市社会福祉協議会



はじめに



市民の皆様には、これまで当協議会が取り組んでまいりました各種の福祉事業にご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、少子高齢化に伴う人口減少や地域コミュニティの希薄化など社会経済環境も大きく変化する中で、地域の福祉課題は複雑かつ顕在化しており、より深刻な状況となっております。

また、昨年来、終息の見通しが定まらないコロナ禍においても、市民自ら健康な生活を送るため、誰もが住み慣れた地域で安全で安心して暮らすことができるまちづくりを進め、地域住民をはじめ、行政、福祉、医療、ボランティア等がネットワークの一層の強化を図り、積極的に社会問題に取り組んでいく必要があると考えております。

こうした状況を踏まえ、前活動計画の「みんなで支え合い、みんなが『あっさり』して生活できる社会を目指して」の基本理念や3つの基本目標を踏襲しつつ、新たに6つのキーワードと12の重点取り組みを軸として令和3年度から令和8年度までの6年間に取り組むべき具体的な活動内容を定めた第3次地域福祉活動計画を策定いたしました。

今後は、市民の皆様とともに当協議会のネットワークを生かし、地域課題の解決を通じて、企業や団体など福祉分野に限らない「助け合いのしくみづくり」の強化に努め、本計画の実現に向け邁進してまいりたいと考えております。

結びに、本計画の策定に携わっていただきました策定委員の皆様をはじめ、ご協力いただきましたすべての皆様に厚くお礼申し上げますとともに、新たな計画の推進にあたりまして、引き続き皆様のご参加とご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人 高岡市社会福祉協議会

会長 尾崎 憲子

目次

はじめに

第1章 第3次地域福祉活動計画の策定にあたって	1
1 地域福祉活動計画策定の背景	1
2 地域福祉活動計画の目的	1
3 地域福祉計画と地域福祉活動計画との関係	2
4 地域福祉活動・事業の展開圏域	3
5 地域福祉活動計画づくりの組織	4
6 地域福祉活動計画の策定経過	5
7 地域福祉活動計画の期間	5
第2章 第2次地域福祉活動計画を振り返って	6
第3章 第3次地域福祉活動計画の推進に向けて	8
1 第3次地域福祉活動計画の基本理念と基本目標	8
(1) 新しい地域福祉活動計画のあり方	8
(2) 地域福祉活動計画の基本理念	9
(3) 地域福祉活動計画の基本目標	9
2 第3次地域福祉活動計画体系図	10
3 第3次地域福祉活動計画年度	11
4 活動のキーワードと取り組み	14
第4章 推進体制と評価	22
資料編	23



第1章 第3次地域福祉活動計画の策定にあたって

1 地域福祉活動計画策定の背景

近年、人口減少や高齢化、地域コミュニティの希薄化、一人ひとりの価値観の多様化に加え、核家族、心身に障がいのある人などが増加するとともに、虐待やひきこもり、孤独死、8050問題などの社会問題も多発し、人々の生活はますます厳しい状況となっています。

また、災害時における避難支援や安否の確認が課題となってきており、弱い立場の方々が安全に避難するための対策が重要となってきています。

さらには、新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活様式の変化が高齢者や障がいの者の孤立、子どもの心身への悪影響、減収や失業による生活困窮者の増加など、課題をさらに助長している現状です。

このように、私たちの生活環境が大きく変化している中で、個人の力では解決できない問題が生じてきています。

国においては、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）を見据え、平成28年に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が設置され、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現を目指すこととされました。

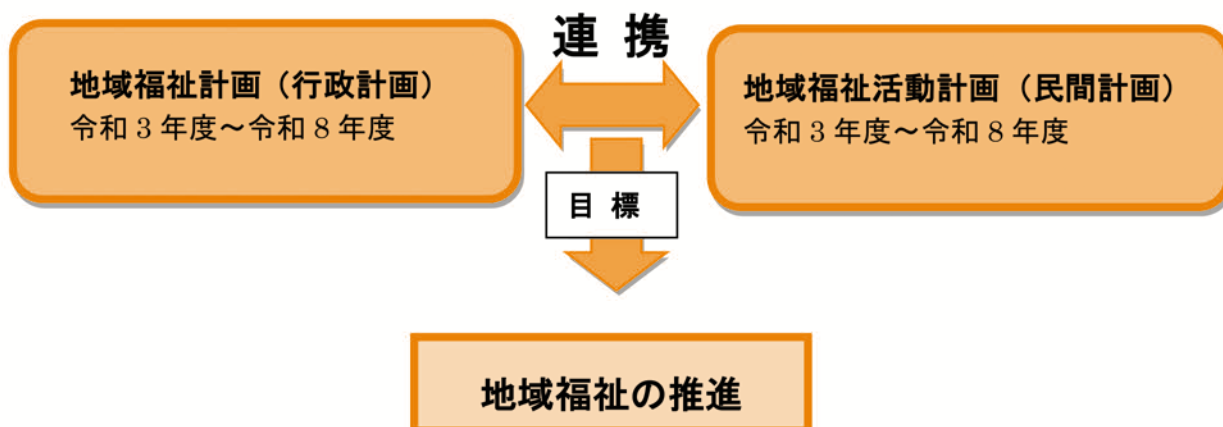
2 地域福祉活動計画の目的

このような状況も踏まえ、高岡市においては、令和3年に「みんなで支え合い、みんなが『あっさり』して生活できる地域共生社会を目指して」を基本理念とした高岡市地域福祉計画（行政計画）を策定されました。

高岡市社会福祉協議会においても、平成28年度から取り組んできた「みんなで支え合い、みんなが『あっさり』して生活できる社会を目指して」を基本理念とした高岡市地域福祉活動計画の進捗状況を踏まえ、かつ、高岡市で策定された行政計画と連携しながら、住民、民間の立場から地域福祉活動をどのように進めていくのかを明らかにし、地域福祉の推進に取り組むための指針として、第3次高岡市地域福祉活動計画を策定しました。



3 地域福祉計画と地域福祉活動計画との関係



地域福祉を推進するための計画は、行政が策定する「地域福祉計画」と、社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」の2つの計画があります。

地域福祉計画は、社会福祉法第107条の規定に基づき、市町村が行政計画として策定するものです。

また、地域福祉活動計画は、社会福祉法第109条の規定に基づき、地域福祉活動を担う社会福祉協議会が中心となり策定するものです。

高岡市全体の方向性、理念、仕組みをつくる計画が「地域福祉計画」で、地域福祉の推進について、具体的に取り組む活動などをまとめた実践的な計画が「地域福祉活動計画」であり、この2つの計画が「地域福祉」という同じ目標に向かって、お互いに連携する関係にあります。

【参考】社会福祉法より抜粋

第一百七条（市町村地域福祉計画）

市町村は、地方自治法第二条第四項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を営業者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

- 一 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- 二 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 三 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

第一百九条（市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会）

市町村社会福祉協議会は、一又は同一都道府県内の市町村の区域内において次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であって、その区域内における社会福祉事業を営業者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、かつ（中略）市及び町村にあってはその区域内における社会福祉事業又は更生保護事業を営業者の過半数が参加するものとする。

- 一 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- 二 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- 三 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- 四 前三号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

4 地域福祉活動・事業の展開圏域

事業の推進にあたっては、世帯・個人から市内全域とのつながりと事業の対象者を意識するために、事業の範囲を4層の圏域として明確に実施していきます。

○地域福祉活動・事業の展開圏域

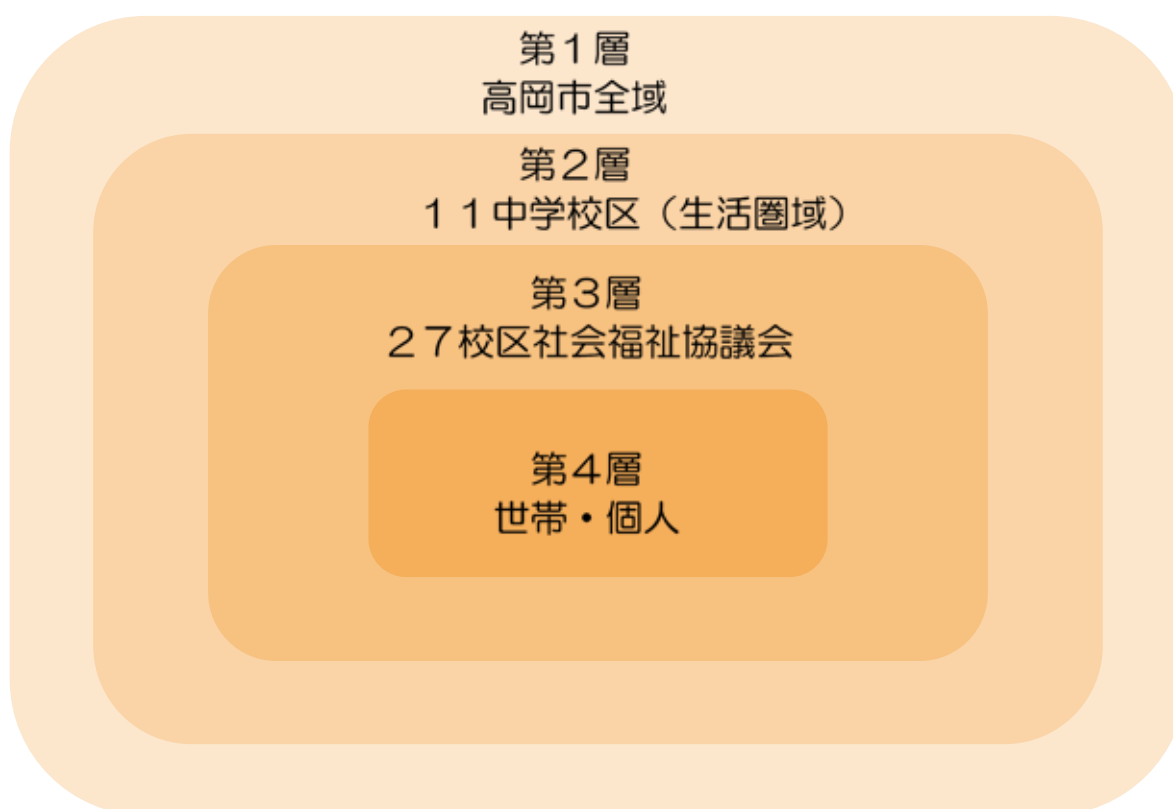
第1層：市内全域を対象とした事業

第2層：中学校区（生活圏域）を対象とした事業

第3層：27校区社会福祉協議会を対象とした事業

第4層：世帯・個人を対象とした事業

【圏域図】



5 地域福祉活動計画づくりの組織

この計画の策定にあたっては、地域福祉全般を専門的に審議していくため「地域福祉活動計画策定委員会」と、市社会福祉協議会職員が主体となり計画作成の基礎資料収集や実態把握などの実務を担う「作業部会」を設置しました。

なお、策定委員会には、自治会、校下・地区社会福祉協議会（以下「校区社協」という）、ボランティア団体、老人クラブ、障がい者団体などの各関係機関の代表に加わっていただき、それぞれの立場から出た意見・提案を計画に反映しました。

また、各校区社協や地域包括支援センターから聞き取った課題や要望なども参考に「地域福祉活動計画」の策定に取り組みました。

地域福祉活動計画策定委員会

【役割】

- ・ 活動計画（素案）の審議
- ・ 活動計画（案）の作成



作業部会

【役割】

- ・ 基礎資料収集・実態把握
- ・ 活動・事業の進め方の検討
- ・ 活動計画（素案）の作成



住 民

【役割】

- ・ 高岡あっさり福祉ネット推進事業でのアンケート結果や提案など



▲ 策定委員会



▲ 作業部会



▲ 巡回訪問（ヒアリング）

6 地域福祉活動計画の策定経過

開催日	会議等	検討内容
令和元年10月～ 令和2年12月	各校区社協への 巡回訪問	・ 校区の課題や取り組み内容について聞き取り
令和2年10月	各地域包括支援センター への巡回訪問	・ 市社協への要望
令和2年 10月8日	第1回作業部会	・ 第2次計画の振り返り ・ 計画の骨子、スケジュールについて など
令和2年 10月28日	高岡市社会福祉協議会 職員研修	・ 地域福祉活動計画について ・ 第2次計画期間の市社協としての取り組み評価 ・ 専門職から見た地域福祉課題
令和2年 12月22日	第2回作業部会	・ 校区社協および地域包括巡回訪問結果について ・ 重点取組みの検討について など
令和3年 1月20日	第1回策定委員会	・ 第2次地域福祉活動計画の分析と評価 ・ 第3次地域福祉活動計画（案）について
令和3年 2月3日	校区社協会長研修会	・ 第3次地域福祉活動計画（案）について ・ 校区社協巡回訪問の振り返り
令和3年 2月24日	第3回作業部会	・ 第3次地域福祉活動計画（案）について
令和3年 6月18日	第2回策定委員会	・ 第3次地域福祉活動計画（案）について

7 地域福祉活動計画の期間

計画の期間は、令和3年度から令和8年度までの6年間とします。

また、今後の制度改革や社会情勢の変化などに対応し、必要に応じて計画の見直しを行います。



▲高岡市社会福祉協議会館の外観

第2章 第2次地域福祉活動計画を振り返って (計画期間：平成28年度～令和2年度)

基本目標Ⅰ 助け合い、支え合える地域をつくろう。(地域づくり)

【事業の評価】

高岡あつまり福祉ネット推進事業やケアネット活動、ふれあい・いきいきサロン事業を中心に市内校区社協にて地域福祉の充実に取り組みました。また、校区社協ごとの「校下・地区地域福祉活動計画」の策定を平成29年度から順次進めています。

【巡回訪問で集まった地域からの声】

類似事業が多くあり、担い手が不足する中、事業の継続・実施が困難です。高齢者への支援が多いため、障がいや子ども分野へも目を向けてほしいです。

【課題】

地域の希薄化が進む中、誰もが安心して生活ができる地域にするため、さらなる地域福祉の充実が必要です。特に子育て世帯への支援については、保護者とその家族だけでなく、関係機関や地域の人々、行政が一体となって、社会全体で子どもや子育て家庭を支えていく意識を持つことが必要です。また類似事業が多く、地域の負担が大きくなっているため、事業のスリム化が望まれています。

基本目標Ⅱ みんなの暮らしはみんなで支えよう。(仲間づくり)

【事業の評価】

地域を支える人材の育成を行うため、ボランティア養成講座やボランティア広場などを開催し、ボランティア活動に参加する場を創出しました。

福祉教育では各種研修会の開催やアクティブシニア地域デビュー講座を開催し、さまざまな福祉課題について学ぶ場を創出しました。

【巡回訪問で集まった地域からの声】

担い手が高齢化してきています。地域課題に対応できる人材やボランティアの力が必要であり、若い世代も参画できるようなくみづくりが必要です。

【課題】

今後、ますます複雑・多様化する地域課題に取り組む地域の担い手が不足しており、幅広い年代への福祉教育が必要です。そのためには、ボランティア活動に気軽に参加できるように、活動の場や養成の場の充実が必要です。

困りごとを抱えている方同士がつながることができる場が不足しています。特に障がい、ひきこもり、外国の方など支援が行き届かない人への支援体制の構築が必要です。

基本目標Ⅲ 一人ひとりの暮らしを大切にするしくみをつくろう。

(しくみづくり)

【事業の評価】

高岡市社会福祉法人連絡協議会において、集いの場と総合相談の機能を兼ね備えた「福祉ねま～る茶屋—困ったこと何でも話さんまいけ—」を立ち上げました。また、令和2年度からは、生活困窮者の支援を目的に「生活困窮者等支援事業」に新たに取り組み、緊急的な食糧支援などを実施しています。

生活福祉資金貸付事業や日常生活自立支援事業等のさまざまな事例を通して、多職種と連携する機会が多くありました。平成31年からは呉西地区成年後見センターを開所し、成年後見制度の相談受付や普及・啓発、法人後見の受任を行っています。

【巡回訪問で集まった地域からの声】

福祉に関する情報や先進的な取り組みの情報発信をしてほしいです。

地域で困りごとを抱えた方を見つけた時に専門職と気軽に相談できるようなしくみづくりや、専門職と顔の見える関係を築くことができると良いです。

【課題】

インターネットや SNS の活用により、若い世代にも情報発信を行い、地域福祉に興味を持ってもらえるような働きかけが必要です。

「我が事・丸ごと」に対応できるよう、地域住民や専門職との連携体制の強化が必要です。

第3次地域福祉活動計画では、地域からの声を基に
みんなが『あっかり』して生活できる地域共生社会を目指して

12の重点取り組み を推進します

第3章 第3次地域福祉活動計画の推進に向けて

1 第3次地域福祉活動計画の基本理念と基本目標

高岡市社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画は、住民の生活全般にわたる福祉の向上を、具体的な活動で示すものです。

第3次地域福祉活動計画では、高岡市が策定する地域福祉計画と同じ基本理念と基本目標を定め、相互の連携による効果的な地域福祉活動の推進を図るものとなりました。地域福祉計画と地域福祉活動計画は同じ基本理念と基本目標を掲げ、地域福祉の推進を目指します。

(1) 新しい地域福祉活動計画のあり方

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs（エス・ディー・ジーズ）「2016年から2030年までに達成すべき17の環境や開発に関する国際目標」は、持続可能な世界を実現するために作られたものです。高岡市地域福祉活動計画では、高岡市地域福祉計画と同様に「誰一人取り残さない」支え合い、つながっていく社会の実現を目指しており、SDGsとの関連性も反映しました。

高岡市地域福祉活動計画と関連の深い目標

※高岡市地域福祉計画と合わせた『6つの目標』

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

目標1 (貧困)		あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
目標2 (飢餓)		飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
目標3 (健康・福祉)		あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
目標4 (教育)		すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
目標10 (平等)		各国内および各国間の不平等を是正する。
目標17 (パートナーシップ)		持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

(2) 地域福祉活動計画の基本理念

「みんなで支え合い、みんなが『あっかり』して
生活できる地域共生社会を目指して」

『あっかり』とは・・・

富山弁で「安心する」「ほっとする」「心が休まる」という意味で、「あかり」の連想から「明るい」意味も含まれます。

住み慣れた地域で、安心して暮らしていける「明るく温かい高岡」をイメージしています。



(3) 地域福祉活動計画の基本目標

地域づくり

I 助け合い、支え合える
地域をつくろう。



仲間づくり

II みんなの暮らしは
みんなで支えよう。

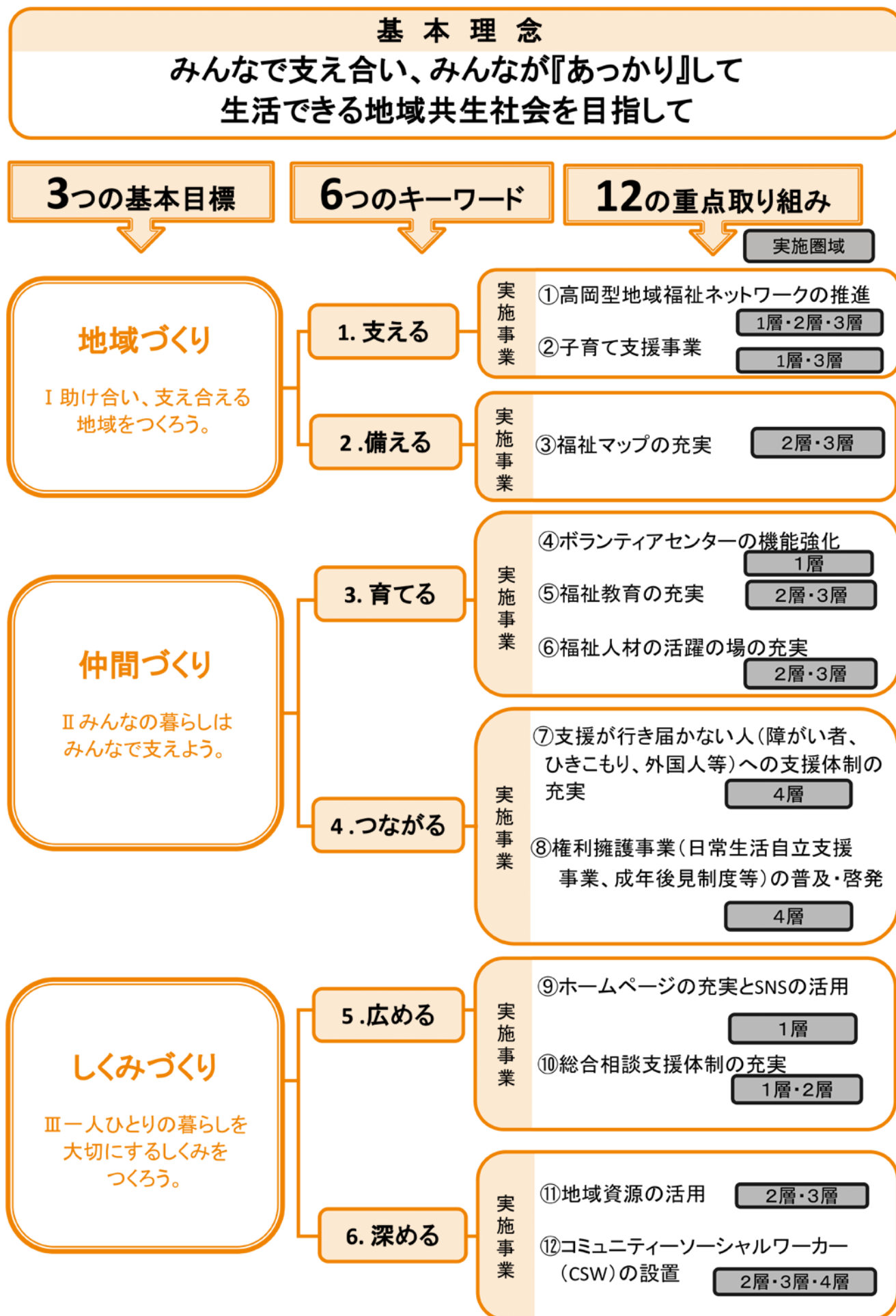


しくみづくり

III 一人ひとりの暮らしを
大切にするしくみを
つくろう。



2 第3次地域福祉活動計画体系図



3 第3次地域福祉活動計画年度

基本理念 みんなで支え合い、みんなが『あっさり』して生活できる地域共生社会を目指して

基本目標 I 地域づくり

1. 支える

中間評価

番号	実施事業	事業内容	実施内容	実施計画年度						
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
①	高岡型地域福祉ネットワークの推進	地域総合福祉推進事業(ケアネット活動) 地域住民でチームをつくり、支援を必要とする方の話し相手や見守りなどを行い、地域での生活を支援する。令和2年度末時点で127チームが活動している。	①活動チームの増加	地域へ出向き、チーム数増加に努める(160チームまで増加)						
			②活動記録の簡素化	様式変更について協議	実施					
			③校区社協の巡回訪問	第3次計画のフィードバック				ニーズ調査		
		高岡あっさり福祉ネットワーク推進事業 市内全27校区で、その地区の特性や地域課題に合った支援のしやすい体制づくりを進める。	①校下(地区)地域福祉活動計画の策定	全校区策定	各校区ごとに順次見直し					
			②地区担当制について	市社協全職員で取り組むための研修会を実施	新体制で実施					
			ふれあい・いきいきサロン 閉じこもりがちな高齢者などが地域で気軽に参加できる場として、公民館などを利用し実施している。レクリエーション用具の貸出なども実施している。	①校区ごとのサロン担当者研修会実施	校区社協へ説明・調整	実施				
②貸出備品の充実	各サロンの要望把握と備品購入									
事業のスリム化 類似した事業を一本化し、一体的に事業に取り組むことで、人手不足や財源不足の解消に努める。	①地域や行政と事業のスリム化を目指す	行政・地域との協議	新体制で実施							
②	子育て支援事業	家庭および地域社会で子育てに関わる全ての方を対象とした集いの場づくりを実施し、みんなで子育てを考える機会とする。	①子育て世代の集いの場づくり	子育て世帯とともに地域住民も参加できる集いの場の創出						

評価・更新

2. 備える

中間評価

番号	実施事業	事業内容	実施内容	実施計画年度					
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
③	福祉マップの充実	一人暮らし高齢者や障がい者世帯などの気になる世帯を住宅地図に示し、災害時の支援や日頃の見守りに生かす。	①福祉マップの更新調査	整備状況の調査	マップを活用した実践的な防災訓練の実施				
				更新作業の支援					

評価・更新

基本目標 II 仲間づくり

3. 育てる

中間評価

番号	実施事業	事業内容	実施内容	実施計画年度						評価・更新	
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
④	ボランティアセンターの機能強化	ボランティア体験を通してボランティアへの理解・関心を深める。	①ボランティア活動体験学習事業の拡充（2年おきに1校区ずつ対象を拡大）	校区社協など関連団体と協議・事業実施・アンケートによる効果把握			協議・実施・効果把握			協議・実施・効果把握	評価・更新
		地域福祉活動を担うボランティアへの理解・関心を深め、活動の推進を図る。	①ボランティアの育成・関連講座の充実	講座メニューの再検討			実施			効果把握	
		ボランティア活動の拠点としての情報提供やボランティアを希望・提供相談のコーディネート機能の強化を図る。	①ボランティア情報の発信と収集の環境づくりの強化	関係団体との協議・調査・新たな取り組みへの検討			実施				
⑤	福祉教育の充実	出前講座を実施し、地域住民に広く福祉の情報を提供する。	①出前講座の実施			メニューの検討			実施		評価・更新
⑥	福祉人材の活躍の場の充実	福祉活動員が継続的に校区内の福祉関係者や他校区の福祉活動員と交流する機会を創出し、地域福祉の担い手として活躍できる環境づくりを行う。	①自治会、民生委員、福祉活動員、校区社協関係者などの交流会実施	校区社協など関連団体への説明					交流会実施		評価・更新

4. つながる

中間評価

番号	実施事業	事業内容	実施内容	実施計画年度						評価・更新		
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度			
⑦	支援が行き届かない人（障がい者、ひきこもり、外国人など）への支援体制の充実	支援が行き届かない人（ひきこもり、外国人など）への支援体制を構築する。	①困りごとを抱えた方への支援	支援団体と情報交換	支援内容の検討			実施			評価・更新	
			②生活困窮者支援	アウトリーチ等を通じた継続的支援活動								
		障がい者理解の促進を図り、支援体制を充実させる。	①障がい者理解促進のための研修会				研修メニューの検討		実施			
			②障がい福祉関係団体と連携を図る	情報交換	支援検討			実施				
⑧	権利擁護事業（日常生活自立支援事業・成年後見制度等）の普及・啓発	日常生活自立支援事業のより一層の周知及び事業への協力者の確保を図る。	①担い手の養成	広報・研修会の実施								評価・更新
		成年後見制度の理解を深め、利用しやすい環境を整える。	②成年後見制度の利用・普及・啓発について協議の場の創出	検討				実施				

基本目標 Ⅲ しきみづくり

5. 広める

中間評価

番号	実施事業	事業内容	実施内容	実施計画年度						
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
⑨	ホームページの充実とSNSの活用	福祉の情報についてより身近でタイムリーに情報発信を行う。	①ホームページの外国語・ひらがな表記		掲載方法の検討	実施				評価・更新
			②見やすいホームページづくり		パブリックコメントの募集・検討	実施				
			③SNSの開設	ルールづくり	実施					
		校区社協の先進的な取り組みを紹介する。	①ホームページに先進的な取り組み事例を掲載	先進的な取り組みの調査	実施					
⑩	相談支援体制の充実	困難事例に対応できるよう、専門機関との連携の強化を図る。	①事例検討会の充実	市社協発信による定期的な事例検討会開催の検討・実施						

6. 深める

中間評価

番号	実施事業	事業内容	実施内容	実施計画年度						
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
⑪	地域資源の活用	社会福祉法人や企業、学校などと地域が協働して課題を共有し、解決に向けた支援体制の構築を図る。	①地域に応じた福祉サービスの開発		法人連絡協議会などへの働きかけ	実施				評価・更新
⑫	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置	地域住民（第3層）と専門機関（第2層）をつなぎ、困難事例の解決に向けた支援体制（ソーシャルサポートネットワーク）を構築するためのソーシャルワーカーを設置する。	①コミュニティソーシャルワーカーの養成	養成	実施					

4 活動のキーワードと取り組み

目標Ⅰ 地域づくり

キーワード1

支える

◇現状と課題

高岡型地域福祉ネットワークを構築するため、「地域総合福祉推進事業（ケアネット活動）」「高岡あっさり福祉ネット推進事業」「ふれあい・いきいきサロン事業」に取り組んでおり、今後これらの事業を充実させていくことが求められています。

地域福祉の担い手が不足する中、地域のなかには類似した事業が多く存在しています。地域の負担が大きくなっており、事業の継続が困難になっている状況が多々見受けられることから事業のスリム化が必要となっています。

また、少子化や核家族化の進行により、子育て世帯の孤立化も課題となっています。

◇6年後の目標

○地域住民が自らの地域課題に目を向け、解決に向けて積極的に活動できるよう地域が一体的に取り組める体制を整備します。

また、事業のスリム化を実施し、地域の担い手不足を解消し、効果的な事業を展開します。

○住み慣れた地域で子どもから高齢者、障がいのある人などあらゆる人が安心して暮らすことができるよう、住民同士の支え合い体制を構築します。

取り組み① 高岡型地域福祉ネットワークの推進

□地域総合福祉推進事業（ケアネット活動）

市内全27校区で実施されていますが、活動協力者の人材不足や活動記録の煩雑さがネックとなり、チーム数の伸び悩みが見られます。（R2年度末時点：127チーム）

活動記録の簡素化や福祉活動員などの担い手の育成を行い、チーム数の増加を図ります。

【具体的な取り組み】

- ・地域へ積極的に向き、ニーズ把握を実施
- ・活動記録の簡素化

【主な担い手】

民生委員児童委員、福祉活動員、近隣住民、配達業者（新聞、弁当、牛乳など）
認知症サポーター

□高岡あっさり福祉ネット推進事業

平成29年度以降、順次校区ごとに地域福祉活動計画を策定してきましたが、令和3年度中に全校区の策定が完了します。今後は、計画の更新作業の支援を行っていきます。また多様な課題に対して住民主体の活動を展開するため、市社協職員の地区担当制について改善を図ります。

【具体的な取り組み】校区地域福祉活動計画の策定と更新支援、市社協職員の地区担当制改善

【主な担い手】校区社協、地域福祉コーディネーター、民生委員児童委員、福祉活動員、
自治会

□ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者の仲間づくりや閉じこもり予防につなげます。コロナ禍で感染症対策を行いながら実施している取り組みを周知したり、サロンの貸出用具も充実させ、コロナ禍でも適度な距離を保つことのできるゲームなど、プログラム内容の多様化を図ります。

【具体的な取り組み】 校区ごとのサロン担当者研修会の実施、サロン貸出備品の充実

【主な担い手】 福祉活動員、民生委員児童委員、自治会、近隣住民、ボランティア

□事業のスリム化

人材不足や財源不足を解消するため、類似した事業の統廃合を行うなど、地域や行政と協力して、事業のスリム化を目指します。

【具体的な取り組み】 地域や行政と協議し事業のスリム化を図る

【主な担い手】 校区社協、自治会、市、市社協、地域包括支援センター、福祉関係事業所、福祉関係団体

取り組み② 子育て支援事業

子育て世代や支援者同士がつながり、交流できる集いの場を創出し、子育てに役立つ情報提供と、子育てに関する活動の幅が広がるよう、新たな取り組みをサポートする体制を強化します。

【具体的な取り組み】

- ・子育て世帯の交流の場づくり
- ・子育て世帯とともに地域住民も参加できる集いの場の創出

【主な担い手】

子育て世帯親子、近隣住民、主任児童委員、校区社協、ファミリーサポートセンター
保健センター

◇現状と課題

近年、全国各地で大規模な地震、大雨による被害などの自然災害が頻発しており、本市においても大きな被害が懸念される地域が多くあります。一人一人がいのちを守る行動をとることができるよう、日頃からスムーズな避難行動に備えておかなければなりません。

災害時に備えた取り組みとしては、支援が必要な方を対象に登録を進めている「避難行動要支援者名簿」や、配慮が必要な方を地図に示した「福祉マップ」等がありますが、実際の災害時に活用できるものとなっているか見直しが必要です。

◇6年後の目標

各種団体の連携により、非常時に、誰一人取り残さない地域をつくります。

取り組み③ 福祉マップの充実

各校区で作成された「福祉マップ」を定期的に更新し、正確な情報を共有します。また「避難行動要支援者名簿」とも連携させ、より精度の高いマップ作りを行うことで、実践的な防災訓練の実施を目指します。各世帯に配布されている「命のボトル」も、改めてその重要性を呼び掛け、更新を促します。

【具体的な取り組み】

- ・地域へ積極的に向き、更新状況を把握
- ・福祉マップ、命のボトル更新作業の支援

【主な担い手】

自治会、自主防災会、民生委員児童委員、福祉活動員、近隣住民、地域の各種団体

◇現状と課題

地域住民や多様な組織・団体、専門職等の地域福祉活動への参加なしには地域福祉の推進はないといえます。しかし、地域や個人の課題は複雑・多様化・増加する一方で、少子高齢化や人口減少、働き方の変化等により様々な分野で地域づくりの担い手が減少しています。

そのため、地域福祉活動やボランティア活動への参加や連携環境を整え、地域ニーズに合った支援活動の展開を図る必要があります。

◇6年後の目標

地域福祉への理解を深め、地域のために自ら行動する人材を増やします。

取り組み④ ボランティアセンターの機能強化

多様なボランティアニーズを受け止め、幅広く（住民・企業等）ボランティアの募集・開拓をおこなうとともに、活動の場づくりや調整、紹介機能の強化を図ります。

また、小学生からシニア世代など幅広い年代に対し、ボランティア活動への関心を高める講座を検討し、ボランティアの育成につなげていきます。

【具体的な取り組み】

- ・ボランティア関連講座の充実（対象者などの拡大）
- ・企業の社会貢献や専門的技術、知識を有するボランティアの登録、活用の推進
- ・福祉教育地域指定推進事業の拡充（2年おきに1校区ずつ増やしていく）

【主な担い手】

校区社協、自治会、児童・生徒（小中学生）、企業、高岡市ボランティア連絡協議会を中心とした登録団体、ボランティアサポーター

取り組み⑤ 福祉教育の充実

これからの地域共生社会を担う人材育成のために、障がいや高齢福祉など多分野にわたる福祉関連の出前講座を行い、住民の地域福祉活動への理解を深めます。

【具体的な取り組み】

- ・出前講座の実施

【主な担い手】

福祉活動員、自治会、民生委員児童委員、校区社協、市社協、学校

取り組み⑥ 福祉人材の活躍の場の充実

地域住民の困りごとをより身近な立場から把握する福祉活動員と校区内の民生委員などの福祉関係者が交流する機会をつくり、連携した地域住民の支援体制を整備します。

【具体的な取り組み】

- ・福祉活動員と校区内の福祉関係者が交流する機会づくり
- ・他校区の福祉活動員同士が交流する機会づくり

【主な担い手】

福祉活動員、自治会、民生委員児童委員、校区社協、市社協

ひきこもりや外国人の増加など、現代社会における福祉ニーズが多様化しています。また、コロナ禍における生活困窮など、これまで福祉的支援が不要であった方へも支援が求められています。

自らSOSを発信することが難しい方への支援体制の構築が必要となっています。

◇6年後の目標

困りごとを抱えた当事者同士がつながりあえるような環境を整え、SOSを発信しやすい地域をつくります。また、地域住民への理解を促し、潜在的ニーズを発掘し、自立に向けて伴走しながら支援します。

取り組み⑧ 支援が行き届かない人（障がい者、ひきこもり、外国人等）への支援体制の充実

SOSを自ら発信することが難しい方にはアウトリーチ（出向き）支援を行い、支援が行き届くような地域社会の構築を図ります。

【具体的な取り組み】

- ・障がい分野やひきこもり、外国人の支援団体との情報交換、支援体制の構築
- ・障がい理解のための研修会の実施
- ・生活困窮者等支援事業の実施

【主な担い手】

障がい福祉分野の関係団体、ひきこもりや外国人の支援団体、民生委員児童委員、福祉活動員、校区社協、自治会、市、市社協、NPO

取り組み⑩ 権利擁護事業（日常生活自立支援事業、成年後見制度等）の普及・啓発

権利擁護を必要とする方が適切に制度の利用ができるような環境を整えます。地域住民に普及・啓発を行うことで、潜在的なニーズを抱えた方や誰かの手助けをしたいと思っている方を発掘し、担い手の育成や利用者への支援につなげます。

【具体的な取り組み】

- ・担い手の養成
- ・成年後見について協議する場の創出

【主な担い手】

弁護士会、司法書士会、社会福祉士会、市、市社協、家庭裁判所、福祉関係団体

少子高齢化、核家族化の進展などが社会問題となる中、寄せられる相談は複雑化しています。その対象年代も幅広く、抱える問題は多様であり、多様性のある支援策を検討していくことが求められています。

また、スマートフォンやPCなどICTの普及、コロナ禍における新しい生活様式の定着により、私たちが情報を得る方法も変化しています。時代に合った手段で、最新の情報をいち早く伝える方法を考えていく必要があります。

◇6年後の目標

地域の課題や困難事例について、関係機関や専門職が共有し、連携して取り組めるしくみをつくりまします。また、誰でも手軽にいつでも必要な情報を得られるようしくみをつくりまします。

取り組み⑨ ホームページの充実とSNSの活用

誰もが福祉情報を得やすくするため、わかりやすい情報発信を行います。既存のホームページの内容を充実させ、最新の情報をアップしていきます。また、どんな方にも見やすく分かりやすいものになるよう工夫します。知りたい情報が知りたい時に得られるよう、タイムリーに広く情報発信していくとともに、多くの方に関心をもってもらえるようSNSの開設も検討していきます。

【具体的な取り組み】

- ・ホームページの外国語、ひらがな表記
- ・若者向けにSNSを利用した福祉情報の発信

【主な担い手】

市社協

取り組み⑩ 総合相談体制の充実

特定の分野だけでは解決が難しい困難事例などについて、多職種で話し合う事例検討会を定期的に開催します。支援が必要な人に対して、専門職、地域住民、ボランティアといった複数の関係者が関わることで重層的な支援体制につなげまします。

【具体的な取り組み】

- ・市社協発信で困難事例を検討する事例検討会を開催

【主な担い手】

市社協、市、地域包括支援センター、福祉関係者、医療関係者、校区社協、地域住民、ボランティア、弁護士、司法書士、企業、学校

◇現状と課題

地域における課題は、経済的貧困、ひきこもりなど複雑化・多様化しており、地域や特定分野だけでは対応が困難なケースが増えています。こうした課題に取り組むためには既存のしきみにとらわれず地域やボランティア、福祉関係機関が協働して支援につなげていくしきみづくりが求められています。

◇6年後の目標

相談者の困りごとを、丸ごと受け止められるような体制づくりを強化します。

取り組み⑪ 地域資源の活用

地域貢献を求められる社会福祉法人や社会貢献を行っている企業・学校などと、地域が協働で話し合う機会を設けることで、地域課題を共有します。共有した課題の解決に向けて、新しいサービスの開発や支援できる体制のしきみをつくります。

【具体的な取り組み】

・高岡市社会福祉法人連絡協議会と共に地域課題に応じた新規事業の開発

【主な担い手】

社会福祉法人、企業、学校、市、市社協、校区社協、自治会、
地域包括支援センター、地域福祉コーディネーター

取り組み⑫ コミュニティーソーシャルワーカー（CSW）の設置

総合相談支援を具体的に進めるには、あらゆる困難事例を地域住民と行政、専門職（機関）が共に解決に向けた支援を行う必要があります。そのためには、あらゆる専門職（機関）とのネットワークを構築することは言うまでもなく、その支援対象者が生活する地域住民からの情緒的支援や家事支援、見守りが必要不可欠です。

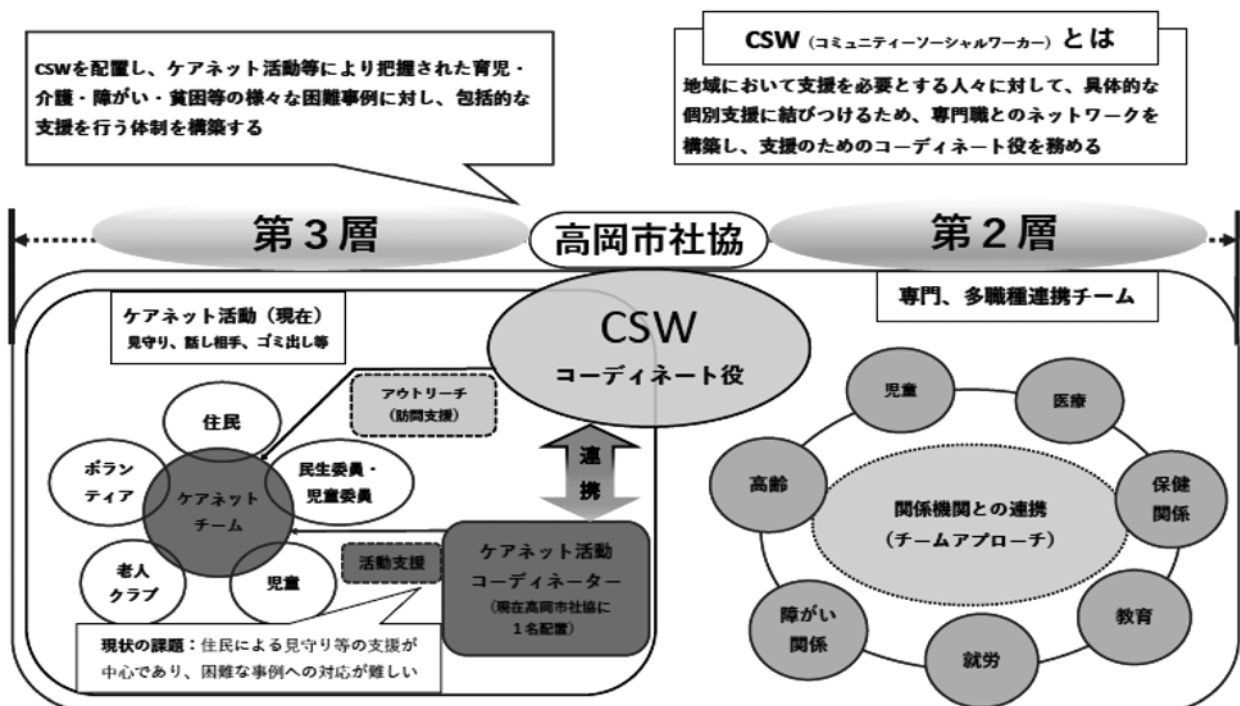
コミュニティーソーシャルワーカーは、領域を問わず困難事例の解決に向けアウトリーチ（出向き）を行い、必要なネットワークを個別につくり、伴走しながら支援します。

【具体的な取り組み】

- ・アウトリーチ（出向き）と社会生活視点のアセスメント
- ・地域住民と行政・専門職、専門機関との支援ネットワークの構築（ソーシャルサポートネットワークの構築）
- ・第2層と第3層をつなぐ触媒機能

【主な担い手】

地域住民（校区社協等）、市、地域包括支援センター、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、ケアマネジャー、医師、保健師、看護師、メディカルソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、弁護士、司法書士、行政書士、商工労働関係等



第4章 推進体制と評価

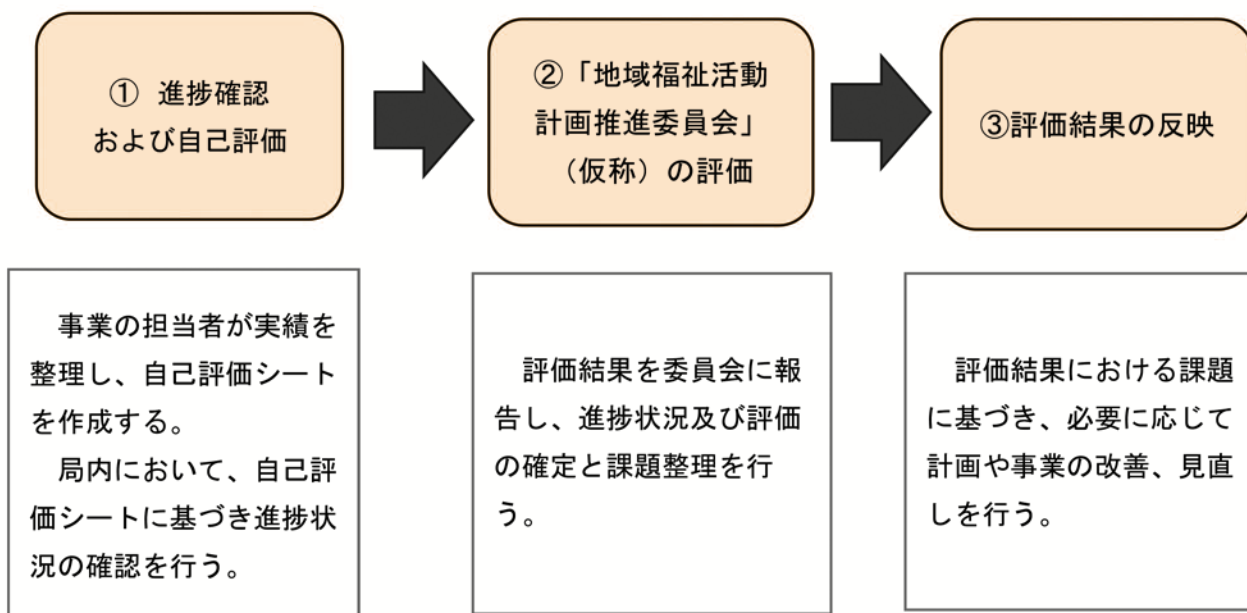
1 計画内容の周知

地域福祉を推進する上で、本計画の目指す地域福祉の方向性や取組みについて地域住民をはじめとして、行政、社会福祉法人、福祉団体、ボランティア、NPO法人、福祉サービス事業者など関係する全ての人が共通の理解を持つことが重要となります。

そのため、広報や校区社協への説明会等を通じて計画内容を公表し広く地域住民への周知啓発に取り組みます。

2 計画の進捗管理

本計画を具体的な事業として実現するため、進捗状況やその評価を行うための「地域福祉活動計画推進委員会」（仮称）を設置し、計画の評価を行うとともに社会情勢、経営環境の変化等により必要に応じて見直します。



資料

高岡市校区別人口・世帯数・高齢化率集計表	23
校区社協巡回訪問事前アンケート	24
校区社協巡回訪問事前アンケート集計	26
校区社協巡回訪問まとめ(校区毎)	29
高岡市地域福祉活動計画推進委員会設置要綱	56
高岡市地域福祉活動計画推進委員会名簿	57

高岡市校区別人口・世帯数・高齢化率集計表

資料：高岡市

校区名	人口(R3.6.30現在)			世帯数	高齢化率 (R3.7.1現在)
	男	女	計		
平 米	1,385	1,610	2,995	1,461	40.1%
定 塚	4,352	4,827	9,179	4,193	34.9%
下 関	4,463	4,639	9,102	4,229	23.9%
博 労	2,813	3,110	5,923	2,745	43.4%
木 津	2,921	3,177	6,098	2,392	27.3%
横 田	2,535	2,726	5,261	2,243	37.9%
西 条	3,257	3,349	6,606	2,776	35.0%
川 原	1,458	1,567	3,025	1,345	38.2%
成 美	3,503	3,988	7,491	3,418	39.7%
二 上	1,168	1,240	2,408	998	37.1%
伏 木	4,814	5,310	10,124	4,300	41.4%
戸 出	6,603	6,652	13,255	5,285	32.6%
中 田	2,755	2,952	5,707	2,248	35.5%
能 町	5,637	5,843	11,480	4,787	29.2%
牧 野	4,779	4,857	9,636	3,708	30.3%
野 村	8,698	9,198	17,896	7,649	26.6%
二 塚	1,714	1,803	3,517	1,295	35.1%
佐 野	2,512	2,734	5,246	2,046	37.0%
福 田	1,464	1,482	2,946	1,127	28.0%
小 勢	426	437	863	278	38.5%
立 野	1,528	1,615	3,143	1,235	34.2%
東五位	2,302	2,402	4,704	1,792	30.8%
石 堤	537	546	1,083	415	44.0%
国 吉	1,580	1,628	3,208	1,212	38.4%
守 山	1,124	1,242	2,366	909	40.8%
太 田	1,102	1,220	2,322	879	43.4%
福 岡	6,037	6,340	12,377	4,637	34.0%
その他	—	—	—	—	—
合 計	81,467	86,494	167,961	69,602	33.6%

※校区名については、高岡市の表記に準じる

校区社会福祉協議会巡回訪問 事前アンケート

訪問時の意見交換等をスムーズに行うため、校区の状況についてお聞かせください。

1. 校区社協名 _____ 校下・地区社会福祉協議会

2. 現在、校区社協で力を入れて実施している取り組みをお聞かせください。

3. 地域住民から出る課題や校区の課題にはどのようなものがありますか。

(あてはまるものに○をつけてください)

空き家 ・ ゴミ ・ 買物 ・ 除雪 ・ 交通 ・ 移動 ・ 経済

介護予防 ・ 生きがい ・ 健康 ・ 医療機関 ・ 施設 ・ 認知症

子育て ・ 障がい ・ ひきこもり ・ その他 ()

4. 3の課題について、校区社協で取り組んでいることはありますか。

取り組んでいる場合、その内容をお聞かせください。

取り組んでいない場合、取り組みたい課題がありましたらお聞かせください。

5. 校区で気になっていることがありましたらお聞かせください。

6. 校区のよい所、校区の自慢をお聞かせください。

--

7. 校区に期待すること、校区でできそうなことをお聞かせください。

--

8. 市社協への要望・意見をお聞かせください。

【市社協全体】

--

【事業について（あっかり、ケアネット、サロン、ボランティア、共同募金等）】

--

【その他】

--

9. 行政への要望・意見をお聞かせください。

--

10. その他

--

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

【校区社協アンケートまとめ】

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9
校区名	平米校下	定塚校下	下関校下	博労校下	木津校下	横田校下	西条校下	川原校下	成美校下
問2. 力を入れて実施している取り組み	ふれあい・いきいきサロンの新規立ち上げ。	ケアネット活動への理解と情報交換(マップの改正や講演会の実施)	コロナ禍でのサロン運営の検討、ひとり暮らし高齢者(寝たきり、認知症)の見守り等、就学援助(学費保護)児童への支援、三世交流、社協・老人クラブ・民生委員児童委員、福祉活動員等でできるだけ話し、協力体制を築いている。	防犯、あっさり、敬老の集い、シーツ交換ボラ、ひとり暮らし高齢者見守り、サロンの実施。	ひとり暮らし高齢者への友愛訪問、心配な世帯への声掛け、ふれあいいきいきサロン、筋力アップ教室、木津ふれあい食堂、小学生児童登下校見守り、福祉活動員の懇談、未使用マスクの回収、敬老会。	ひとり暮らし高齢者の訪問、ひとり暮らし高齢者や児童の見守り、地域住民交流のためお花見、三世交流、敬老の集い。	福祉活動員研修会、いのちのボタン、友愛訪問、子育て支援事業、男性の料理教室、健康教室。	災害時の避難計画、認知症に対する住民や児童の理解、児童や父兄の防災訓練。	認知症、徘徊への対応(認知症サポーター養成講座の開催、徘徊対応訓練の実施)
問3. 課題 ※()内は合計	空き家(21)	○	○	○	○	○	○	○	○
	ゴミ(9)			○	○	○	○	○	○
	買物(19)		○	○	○	○	○	○	○
	除雪(17)		○	○	○	○	○	○	○
	交通・移動(19)		○	○	○	○	○	○	○
	経済(2)						○		
	介護予防(10)					○	○	○	○
	生きがい(9)			○	○	○	○	○	○
	健康(13)	○		○	○	○	○	○	○
	医療機関(7)			○	○	○	○		
	施設(4)			○	○	○	○		
	認知症(16)		○	○	○	○	○	○	○
	子育て(8)							○	
	障がい(3)			○	○	○	○		
ひきこもり(7)			○	○	○	○			
その他(4)									
問4 課題に対する取り組み	ふれあい・いきいきサロンの新規立ち上げ。	買物・除雪・移動に対してケアネット活動実施、高齢者世帯への情報提供(くらし応援情報誌の作成・配布)	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等の玄関から前面道路までの除雪(民生委員児童委員対応)。行事等の合同実施。	買物:全戸に情報誌を配布、移動スーパの要請、空き家:行政相談委員に相談、除雪:近所と協力して実施。	自治会毎に信ぴょう性の高い住民票を整備する必要がある。各世帯の問題に対して自治会中心に解決を図る。地域共生社会を作る。住民の福祉活動意欲向上。	自治会をサポートする会がある(住民から要望があった場合対応)、高齢者の生きがいづくり。	福祉活動員研修会などで、福祉活動員への啓発。サロンを増やしていく。	空き家の苦情は民生委員児童委員が行政等と相談している。	地域主体の徘徊対応訓練の実施、小学生の認知症サポーター養成講座の実施。
問5 気になっていること	空き家や高齢者の増加。	近所づきあいや他人の干渉を拒む人が多く、ケアネット活動が進まない。	災害時の避難所への避難経路、避難所における配慮すべき内容等の具体化。避難所への行政と地域の役割・責任を明確化。高齢者と障がい者同居支援ケースの増加、役員会の回数・開催時間・内容、融雪設備や読書場所、福祉活動員の協力体制や手不足。	高齢化が進み、ひとり暮らしが多いため民生委員児童委員の負担増。安全・安心な地域になるよう不審者の連絡。他団体との連携(若い方の参加)	ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、子供の状況が把握しきれない。コロナ禍で他者と出会う機会が減った。災害時の避難見直し。	高齢者の増加、子どもの減少、コロナのためつながりが希薄になっている、空き家対策(空き家の利活用)	福祉への関心が自治会ごとに温度差がある。住民レベルで進めることができるか。	住民が減少し、自治会組織が維持できない町内が出てきている。今後も増える可能性がある。	空き家、認知症の増加。
問6 校区のよいところ自慢	65歳以上の方へ命のボトルを配布している。	ふれあい・いきいきサロンが20町内で実施されている。	高岡駅、新高岡駅、イオンモール、瑞龍寺に近く、年々発展している。民生委員児童委員が積極的に活動している。ゴミがあまり落ちていない、道がきれい。	社協で毎年新しい企画を実施、町内で防犯カメラ(防犯意識高い)、広報誌での情報発信。	まとまりがあり、人とのつながりがある。医療機関整っている。取組に協力的。人口増加見込める。ふれあい食堂実施。	まとまりのよい地域(自治会ごと、小学校を中心に)、包括へ相談しやすい、各団体が社協に協力的。	昔からの農業や工業で培ってきた隣近所の強い付き合いのある地域。	校下が小さくまとまりがあり、社協を中心に問題を解決している。高齢者から子どもまで地域の見守りや団結がしっかりしている。	校下の各団体と連携がとれている。福祉活動員が積極的に参加している。
問7 校区に期待することできそうなこと		声をかけると協力してくれる方もいるため、ボランティアを増やす。	もっと若者に集まってほしい。元氣な校区になって欲しい。「支え合う地域づくり会議」のような拠点での議論を活発化し、元氣がある校区になって欲しい。	安全・安心なまちづくり、子どもと地域の繋がりが持てるよう児童対象の行事の拡充。	高齢者の見守り、声掛け。サロン参加者を増やし、つながり強化。社協や各種団体に若い人の参画を望む。	高齢者が気軽に集える駐車場付きサロン、通学路の安全確保(高齢者の安全にもつながる)、介護予防の小規模な集會。	日ごろからのお互いの見守り(ケアネット活動の広がり)	連合自治会から社協に対して意見、アドバイスをもらい行事や避難訓練を行いたい。夏休みに親子防災訓練を実施したい。	各世代を通して身近な地域に対して関心を持てるとよい。

No	10	11	12	13	14	15	16	17	18
校区名	二上地区	伏木地区	戸出地区	中田地区	能町校下	牧野校下	野村地区	二塚校下	佐野地区
問2. 力を入れて実施している取り組み	介護予防(サロン、ストレッチ体操、筋力アップ教室)、福祉マップ、ケアネット活動、いのちのバトン、料理教室。	福祉活動委員会、高齢者への弁当配布、いのちのバトン、あっさり福祉マップ推進事業での講演会の実施、老人クラブでのスポーツ。	子育て支援、健康づくり事業、サロンやケアネットの維持拡充と交流会、地域福祉推進委員会の開催、いのちのバトン。	高齢者対象の福祉活動、ふれあいいきいきサロン。	命のバトン(全戸配布)、情報シート更新	老人福祉センターでの生きがい対策、子育て支援、いのちのバトン。	ひとり暮らし高齢者への宅配弁当、子どもたちの見守り、敬老会、学童への夏休み弁当提供、サロン、健康体操、ケアネット。	ひとり暮らし高齢者宅への訪問活動、高齢者のスマホ活用。	ジュニア福祉活動員、ひとり暮らし高齢者への配食、福祉講演会、福祉マップ、いのちのバトン、敬老会。
問3. 課題 ※()内は合計	空き家(21)	○	○	○		○	○	○	
	ゴミ(9)	○	○					○	
	買物(19)	○	○				○	○	○
	除雪(17)	○	○			○	○	○	○
	交通・移動(19)	○	○		○		○	○	○
	経済(2)								
	介護予防(10)		○	○				○	○
	生きがい(9)		○	○					
	健康(13)		○		○	○		○	○
	医療機関(7)	○							
	施設(4)						○	○	
	認知症(16)	○	○	○			○	○	○
	子育て(8)			○			○	○	
障がい(3)									
ひきこもり(7)		○					○		
その他(4)									
問4 課題に対する取り組み	買物支援(移動販売の利用)、自治会中心の除雪、小学生への認知症サポーター養成講座。	ふれあいサロンの実施、健康づくりの体操や健康講座の実施、交通安全教室や講座の実施、認知症高齢者の支援について考える研修会。	介護予防の講演会、認知症の講座や研修会、赤ちゃん広場、親子料理教室、子どもまつり。	ふれあいいきいきサロンの実施、児童安全見守り活動の実施。	宅道の除雪は、福祉活動員、民生委員児童委員が自治会の班長や近隣住民と協力して行う。	高齢者の生きがい対策に老人福祉センターの利用、いのちのバトン配布、子育て支援事業。	三世交代交流の取り組みを実施してほしい、生きがいづくり講演会の実施、徘徊者捜索訓練。	健康、介護予防対策としてスマホ活用講座の開催。	移動販売の利用、除雪ボランティアの普及、ストレッチ体操の普及、ケアネット活動の普及。
問5 気になっていること	認知症の増加、受診時の移動手段(タクシー利用は高額)、ケアネット活動などボランティアの担い手減少。	高齢者の買物の利便が悪い、坂が多い、認知症が増えている、役員を引き受ける人の固定化(担い手不足)、福祉活動員の活動方針。	災害時の避難の具体的な対応、買物・除雪・買物・除雪・買物・除雪・買物・除雪について。	ボランティア活動に携わっているメンバーが固定化し、若い人が少ない。		老人福祉センターが廃止されることに伴い、活動の中心・拠点となる施設がなくなる。	ひとり暮らし高齢者の増加、認知症による徘徊、公共施設の存続、DV、空き家問題、子供向けイベントが少ない、交通の便が悪い。	見守り活動が複数あり、訪問宅から迷惑がられたり、ボランティアの意欲減退になる。免許返納後の移動手段。	空き家の増加、免許のない高齢者の移動。
問6 校区のよいところ自慢	顔がわかりコミュニケーションがとりやすい。認知症の方でも比較的地域の理解がある。	元気な高齢者が多い。勝興寺、万葉歴史館、国分浜など観光、文化の面で誇れる。祭りなど行事を通じた世代間交流の機会がある。	事業を進めるときに、各種団体との連携や協力体制ができている。	地区のまとまりが良い。緑が豊かで地下水が豊富。	福祉活動員や民生委員、自治会が協力してふれあいいきいきサロンを実施している。	連合自治会、防犯協会などで見守りが実施されている。	伝統行事を大事にしている、地区の繋がりがあり人柄がよい、ゴミの処理が行き届いている、見守りが実施されている。	地区内にJRの駅があり、大型商業施設もある。	住民同士のつながりがあり、支えあうことができる地域。孤立が少なく、安心・安全な住みよい地域。
問7 校区に期待することできそうなこと	ミニデイなどの集いの場、介護予防の取り組み。	伏木・古府のすみわけをどうするか(従来の運営方法を見直し、事業の協議)、定年退職を控えた世代に向けた地域活動とのつながりづくり。	健康づくり(歩こう会)の充実。	郷土の文化や伝統の継承。	福祉課題を発見し、その情報を自治会、民生委員児童委員、各関係機関と解決に向けて協力する。	社協会費や校区社協の助成金のあり方について。	災害時の避難場所の見直しと確保、高齢者の交流の場(高齢者食堂等)の実施。		社協、老人クラブと連携した見守り活動(ケアネットの推進)

No	19	20	21	22	23	24	25	26	27
校区名	福田地区	小勢地区	立野地区	東五位校下	石堤地区	国吉校下	守山地区	太田校下	福岡町地域
問2. 力を入れて実施している取り組み	ふれあい・いきいきサロン、ジュニア福祉活動員の訪問、敬老会、ひとり暮らしの見守り。	ふれあい・いきいきサロン。	ふれあい・いきいきサロンの展開。	災害時の対応についての検討、防災備品の整備。	高齢者世帯への見守り。	ふれあい食堂の実施、福祉マップ作成による地域の実態把握。	サロン、いのちのバトン(更新の声かけ)、ケアネットのチーム増えた。	ひとり暮らし高齢者への配食、ふれあいサロン、民生委員児童委員との連携、健康づくりの取り組み。	暮らしのサポートセンター、生活困窮者対策事業、ふれあい・いきいきサロン、支援マップ作成・更新。
問3. 課題 ※()内は合計	空き家(21)	○	○	○	○	○		○	○
	ゴミ(9)	○	○		○				
	買物(19)	○	○		○	○	○	○	○
	除雪(17)	○	○		○	○			○
	交通・移動(19)	○	○		○		○	○	○
	経済(2)								○
	介護予防(10)	○	○					○	
	生きがい(9)	○	○				○		○
	健康(13)	○	○				○		○
	医療機関(7)	○	○			○	○		
	施設(4)								
	認知症(16)	○	○					○	○
	子育て(8)	○	○		○				
障がい(3)									
ひきこもり(7)	○							○	
その他(4)	○	○					○	○	
問4 課題に対する取り組み	空き家・空地に動物が住み着いたり、雑草が生えて環境に悪影響。営農で耕作放棄地の除草剤散布している。	不法投棄パトロール、除雪活動員の確保、ふれあい・いきいきサロンの充実、不燃物の分別、小勢バス、防犯パトロール、ひとり暮らし高齢者の支援。	空き家・認知症・障がいの世帯を防災福祉マップに記載。生きがい・ひきこもり対策として名画鑑賞会を実施。	自治会が中心に空き家対応、除雪を実施。買物については移動販売を紹介。子育て世帯の孤立防止。	空き家:所有者の把握、買い物:一部地域の方が問い合わせをしてくれている。除雪:必要な際は手助けする旨、本人に伝えてある。医療機関:近くに診療所がなく、厚生連高岡病院にはバスで通院可能であるが、特別な支援は現在していない。	買物はとくし丸を利用、交通機関は現在運行している公共交通機関の利用をすすめていく、サロンの継続	買物はフレッシュ佐竹のバスやとくし丸を利用、五十里のバス路線が廃止となるため、自治会で検討している。	高齢化に伴い、免許返納などする買物や通院が困難になる。	暮らしのサポートセンター、遊休品・フードバンク事業、あつかり、サロン、ひきこもりの方への声かけ。
問5 気になっていること	災害時の避難場所が分りにくい。新しい住宅が増える一方で高齢者世帯や空き家が増加している。担い手や参加者の減少。	福祉・健康関連の団体が多く役員が多忙(兼務者多い)、空き家・ひとり暮らし世帯の増加、未婚者の増加により後継ぎ不在、災害時の備え、認知症介護家族の孤立化。	他校区の問題・課題の発掘方法とそれに対する整理・対応。	空き家、ゴミ不法投棄、インター交差点の暴走行為、子育て世帯の孤立防止、除雪、買い物。	地区の高齢化、若い人が他所へ出ていく。	少子高齢化が進んでいる、医療機関がないので受診に不安がある。	高齢化もあり、担い手がいない。同じ人が何役も兼ねている。	担い手の固定化、担い手の高齢化。	生活困窮者の増加、認知症の増加、ひとり暮らし高齢者の増加、8050世帯の高齢化、長寿会への参加が減少。
問6 校区のよいところ自慢	獅子舞などの町内行事などを通して住民同士のコミュニケーションがとれている。水がきれいでおいしく、田園風景が広がる。	田園風景が広がり、自然豊か。空気が、水がきれいで、戸数少ないがまとまりがある。小勢バス(交通手段)がある。小学生との挨拶がある。	福祉防災マップを毎年更新している。		地区のつながりが強く、何かあった際には周りの人がかけつけてくれる。	地域のつながりが強い。助け合う姿が見られる。自然が豊か。	地域住民の介護予防に対する意識が高い。高齢者のことは包括に相談ができる体制になっている。	地区の出入りが少ないため、全体の把握をしやすい。美しい自然環境に恵まれた住環境。	旧福岡町で支部社協、包括、連合自治会等まとまりやすい。子どもが多いため団結力がある。母親同士仲がよい。
問7 校区に期待すること	若い世代の人がより多く住みたいと思う校区になってほしい。敬老会のようなイベントが定期的であればよい。	営農組合への若年層の参加。コロナ禍でも電話での安否確認ができそう。場所があれば、週2~3回近所の人と談話できそう。	各種団体と協力して三世代交流の取り組みや弁当の提供等を検討している。		地区のみなが住民を見守る存在であってほしい。	担い手など現状を維持していきたい(定年延長により、協力してくれる人が少なくなる可能性がある)	年齢関係なく集いやすい場ができたらい。世代間交流を実施している町内もある。		介護保険、総合事業の住民主体の活動の実施。子ども食堂の要望がある。

※地域課題の○印は「課題あり」と回答があったものです。

校区社協名		平米校下 社会福祉協議会
実施日		令和元年12月6日
実施方法		巡回訪問(グループワーク)
出席者		12名(校下社協役員、連合自治会、民生児童委員、福祉活動員等)
地域の特徴	文化・歴史	高岡市の中心部に位置し、御車山祭りの山車を持つ山町がある。土蔵造りの町並みなど観光資源もある。
	コミュニティ・組織	御車山祭りを中心に地域の団結力がある。
	インフラ	コミュニティバスが通っていたが、廃止となった。路線バス、万葉線が走る。
	その他	
地域の課題	空き家	空き家が増加し、掃除が行き届かなかったり、管理ができない。
	ゴミ	カラスがおり、ゴミが乱雑になる。高齢者はゴミ当番が大変。
	買物	校区内にスーパーができたが、買物が大変な人がいる。
	除雪	
	交通・移動	一方通行が多い地区であり、移動が大変。コミュニティバスの廃止により、利用していた人が不便になっている。
	経済	
	介護予防	
	生きがい	公民館でのサークル活動の参加者が少ない。
	健康	○
	医療機関	
	施設	平米・定塚小が合併した場合、公民館はどうなるか。
	認知症	
	子育て	子どもが少なく、小学校が合併する。
	障がい	
ひきこもり		
その他	避難場所が遠い、校下の役員(担い手)の重複	
取り組み		命のバトンの配布 ⇒65歳以上の方へ配布し、活用された事例もある。
		ふれあいいきいきサロンの実施 ⇒実施地区を増やせるよう福祉活動員の勉強など行っている
市社協への意見・要望		・各校区社協の会則や組織、活動内容、広報など取り組みが自由に閲覧できるようにしてほしい。 ・ふれあい福祉センターへ行きづらくなった(コミュニティバスがなくなったため)
行政への意見・要望		・事業の簡素化に努めてほしい
その他		

校区社協名		定塚校下 社会福祉協議会
実施日		令和元年11月15日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		9名(校下社協役員)
地域の特徴	文化・歴史	校区内に高岡大仏があり、美術館、学校も多くある文教地区。
	コミュニティ・組織	市の中心に位置し、駅前商店街・飲食店、古くからある住宅、新興住宅地が混在している。連合自治会、老人会、民生委員、社協などで情報交換を実施している。
	インフラ	校区に高岡駅があり、校区内をJR氷見線が走っている。
	その他	駅前に大型マンションができています。
地域の課題	空き家	空き家や空き地の草木がのび、危険な場所がある。商店街の空き店舗も増えている。
	ゴミ	自治会に加入しない人のゴミ出しの問題。
	買物	地区内に大型スーパーがない。大和も撤退して買物に困っている人がいる。
	除雪	○
	交通・移動	○
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	家族が関わりを拒否する認知症の方への支援に苦慮する。
	子育て	
	障がい	障がい者への理解不足(新しくグループホームができるときに一部住民の反対があった)
	ひきこもり	
その他	野良猫(町内で募金を集めて去勢手術をしている)、カラスのフン、ハクビシンが畑を荒らすなどの被害。	
取り組み	ケアネット活動 ⇒チームで活動することで支援者の負担軽減につながるが、なかなか進まない現状もある。	
	くらしの応援情報誌の配布・更新 ⇒ひとり暮らし、高齢者世帯へ配布し各種情報提供を行っている	
	ふれあい・いきいきサロンの継続 ⇒20町内で実施されている。	
市社協への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・会長連絡会、研修会などを実施してほしい(他校区の活動を知りたい) ・あっかりの取り組みを継続したいため、予算を確保してほしい 	
行政への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者名簿の様式がわかりづらく、更新がきちんと行われていない。 ・市の担当が縦割りなので、行政間で連携してほしい 	
その他		

校区社協名	下関校下 社会福祉協議会	
実施日	令和2年12月7日	
実施方法	ヒアリング	
出席者	3名(校下社協会長、事務局長、会計)	
地域の特徴	文化・歴史	校下の中に、県内唯一の国宝「瑞龍寺」があり、寺と前田墓所を八丁道が結んでいる。新幹線の駅、新高岡駅もでき、市内では珍しく世帯数が増加している地区。「高岡ほうれん草」が有名で、ほうれん草畑が多くある。
	コミュニティ・組織	
	インフラ	
	その他	
地域の課題	空き家	○
	ゴミ	○
	買物	○
	除雪	街中であり、排雪場所がない。融雪設備がない小路も多い。
	交通・移動	コロナ禍でコミュニティバスの運行ストップ。
	経済	
	介護予防	コロナ禍でサロン実施できない。
	生きがい	○
	健康	○
	医療機関	○
	施設	○
	認知症	○
	子育て	
	障がい	老障世帯の増加。
ひきこもり	○	
その他	規模の小さい自治会には民生委員や福祉活動員がいないところもある。	
取り組み	自治会中心に民生委員や福祉活動員が高齢者宅の宅道を除雪している。	
	民生委員、福祉活動員の合同研修会を実施し、情報共有を図っている。	
	コロナ禍前は三世代交流やふれあい弁当(配食)活動を実施していた。	
市社協への意見・要望	他校区での取り組みの紹介をもっと欲しい。(コロナ禍における活動事例含む)福祉活動員が活動しやすいようにガイドブックのようなものを配布して欲しい。	
行政への意見・要望	障がい者支援の確立。除雪。ねずみの駆除。	
その他		

校区社協名		博労校下 社会福祉協議会
実施日		令和2年11月18日
実施方法		ヒアリング
出席者		3名(校下社協役員、民児協会長、民児協副会長)
地域の特徴	文化・歴史	校区の中に御車山の山車を管理する山町がある。
	コミュニティ・組織	博労町では空き家を改築して「まちかどサロン」を立ち上げた。
	インフラ	校区内をコミュニティバスが通っていたが、廃止となった。
	その他	市内で一番高齢化率が高い。
地域の課題	空き家	空き家の課題はあるが、行政相談員に相談したり、博労町では空き家を活用した取り組みをしていた。
	ゴミ	
	買物	買物にタクシーを利用している高齢者がいる。とくし丸を利用している人もいるが、目で見ても買物したいとの声がある。
	除雪	除雪は見守りを兼ねて近所と協力して実施している。
	交通・移動	コミュニティバスが廃止となり不便という声がある。買物の際に移動手段がない人もいる。
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	
	医療機関	医療機関は充実しており、暮らしの情報誌作成の際にも協力してもらった。
	施設	
	認知症	
	子育て	学校には不登校の子ども、障がいのある子などいるようで、児童委員が関わりを持ってほしい。
	障がい	
	ひきこもり	8050世帯で心配な世帯はあまり聞いていない。
その他	高齢化率が高く、1つの団体で事業をすることが難しいため横のつながりが必要。	
取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・あつかり福祉ネット推進事業 ⇒防災グッズ配布、買物ニーズ調査と移動スーパー要請、暮らしの情報誌作成等に取り組んできた ・ボランティア ⇒民生委員、社協、福祉活動員でデイサービスのシーツ交換ボランティアを行っている ・ジュニア福祉活動員 ⇒博労小学校5・6年生が活動している。子どもの少ない町内もある。友愛訪問の対象者が、他の贈呈事業の対象と重なっている。
市社協への意見・要望		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした事業が多いため、子どもにも目を向けてほしい ・あつかり、ケアネット、サロンなど似たような事業が多い ・ケアネットの毎月の記録が煩雑
行政への意見・要望		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者だけでなく、子どもへの支援を充実してほしい。人口も減っており、高岡市として将来を見据えた取り組みをしてほしい。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・今後、担い手不足が懸念されるため、1つの団体だけで事業を実施することは難しく、横のつながりが大事。顔を合わせる機会を大切にしている。

校区社協名		木津校下 社会福祉協議会
実施日		令和2年11月24日
実施方法		ヒアリング
出席者		2名(校下社協会長、事務局担当)
地域の特徴	文化・歴史	千保川沿いの桜並木は有名。春には千保川クルーズが開催される。「木津大根」が有名。
	コミュニティ・組織	木津ふれあい食堂が開催されている。
	インフラ	あいの風鉄道「高岡やぶなみ駅」ができた。
	その他	新しい家が多く建つようになり、人口構成が若い町内も多い。スーパーや医療機関が多く、便利。
地域の課題	空き家	○
	ゴミ	○
	買物	○
	除雪	○
	交通・移動	○
	経済	
	介護予防	コロナ禍でこれまでのようにサロンを開催できず、残念に思っている人も多い。
	生きがい	気軽に入ってコーヒーを飲んで帰るような場所があればいい。
	健康	○
	医療機関	
	施設	
	認知症	認知症の人が増えてきたので、お互いに声をかけあうようにしている。
	子育て	○
	障がい	○
	ひきこもり	数名把握できている。ゴミ出し以外は外に出ず、サロン等参加を呼び掛けても消極的。
その他	ケアネットのチームが増えない。チーム員が集まらない。	
取り組み	民生委員による友愛訪問、登下校の見守り、敬老会での高齢者の安否確認	
	ふれあいいきいきサロンの実施	
	未使用マスク回収⇒5か所の福祉団体へ寄付した。	
市社協への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足、高齢化。 ・福祉活動員の研修がない。役割の明確化が必要。 ・要支援者マップが古くなっている。 	
行政への意見・要望		
その他	若い人にもっと地域に関心をもって参画してほしいが、勤めがあつてできないと言われる。	

校区社協名		横田校下 社会福祉協議会
実施日		令和2年12月9日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		6名(校下社協役員、包括)
地域の特徴	文化・歴史	国の指定登録文化財に認められた有磯正八幡宮があり、歴史のある建物が多い。
	コミュニティ・組織	自治会ごとに行事を開催しているが、七夕などには合同で行事を開催することもある。
	インフラ	校下内を8号線が通り、交通量が多い。
	その他	
地域の課題	空き家	○
	ゴミ	
	買物	近くにスーパーがなく、コロナ禍でフレッシュ佐竹の送迎バスがなくなった。
	除雪	○
	交通・移動	交通量が多く、子供や高齢者の事故が心配
	経済	○
	介護予防	コロナ禍でサロンができない自治会がある。
	生きがい	銭湯の廃湯により、高齢者の生きがいや集う場がなくなった。
	健康	○
	医療機関	○
	施設	○
	認知症	○
	子育て	子どもの数が減少している。
	障がい	○
	ひきこもり	○
その他	コロナ禍で集まれず広報誌発行も進まない。	
取り組み		お花見会や三世代交流事業の実施。
		小学生の登下校時の見守り活動
市社協への意見・要望		事業の活発化のため、「ひと・もの・かね」の情報提供。あつまり福祉ネットのフォロー、担い手不足への対応。
行政への意見・要望		担い手不足への対処。巡回バスの復活。
その他		

校区社協名		西条校下 社会福祉協議会
実施日		令和2年2月19日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		11名(校下社協役員、包括)
地域の特徴	文化・歴史	校下内の金屋町は高岡鑄物発祥の地で、現在も御印祭が行われている
	コミュニティ・組織	校下内に小・中・高校がある。
	インフラ	校下内を8号線が通り、交通量が多い。
	その他	
地域の課題	空き家	金屋町では空き家に若手クリエイターや子育て世代が住みやすいよう対策をしている
	ゴミ	高齢者は不燃物の分別がうまくできていないことがある
	買物	校下内にスーパーやドラッグストアがあり、フレッシュ佐竹では送迎バスを運行している(コロナで休止)
	除雪	○
	交通・移動	○
	経済	
	介護予防	○
	生きがい	
	健康	○
	医療機関	
	施設	
	認知症	○
	子育て	母子保健推進員がいるが、全ての子育て世帯の情報を把握できるわけではないため、教室の周知も難しい。スマホのツールを活用し、子育て情報を発信してはどうか。
	障がい	精神疾患のケースではひとりで対応は難しく、専門職や親族も含めチームで関わる必要がある
ひきこもり	8050世帯で介入拒否されるケースがあり、対応が難しい	
その他		
取り組み		命のバトンの配布 ⇒概ね80歳以上に配布。自治会から公民館に数を報告している。 子育て支援事業「はとぼっぼ教室」 ⇒年1回開催しているが、名簿等ないため参加者がなかなか集まらないという課題がある 福祉活動員研修会、西条小学校・福祉活動員による友愛訪問、男性の料理教室、健康教室
市社協への意見・要望		・各種申請様式の簡素化(名簿等不要) ・重複する事業は整理してほしい ・市社協と地区社協の意見交換の場は継続してほしい
行政への意見・要望		・重複する事業は整理してほしい。厳しい財政とは思いますが、福祉事業は手抜きしないでほしい。
その他		・各種役割(市、市社協、校区社協、民児協、包括等)の明確化や制度の周知啓発

校区社協名	川原校下 社会福祉協議会	
実施日	令和2年10月2日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	30名(校下社協役員、民生委員、福祉活動員、サロン運営者等)	
地域の特徴	文化・歴史	内免はアルミ、捺染工場があり、川原地区は魚市場があり栄えていた。
	コミュニティ・組織	川原校下独自で、自治会長経験者が現自治会長が地域活動推進委員になっている。
	インフラ	コミュニティバスのルートがあったが、コミュニティバスが廃止となった。
	その他	
地域の課題	空き家	空き家に対する苦情が住民から少しあるが、行政等と相談し対応している
	ゴミ	道にゴミを捨てていく人がいる。分別がされていないゴミを捨てる人がいる。
	買物	
	除雪	
	交通・移動	156号線の信号のない場所が危険。
	経済	
	介護予防	老人クラブの減少、サロン参加者の減少
	生きがい	
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	今後ますます増えると思うが、徘徊があった時の対応が心配
	子育て	
	障がい	
ひきこもり		
その他	高齢化が進み世代交代が難しい(担い手不足)、仕事をしながら介護をしている方への支援、野良猫に関する苦情	
取り組み	認知症サポーター養成講座 ⇒小学校・包括と合同で認知症サポーター養成講座を開催。若い世代への理解を図る	
	避難訓練の実施 ⇒避難の他、炊き出し訓練、車いす移乗、ベッド設置等の訓練を行う	
市社協への意見・要望	・こぶし荘の廃止に反対 ・サロンの助成金の増額の働きかけ	
行政への意見・要望	・高齢福祉推進員の見直し(名前だけの人がおり、本来の役割ができていない)	
その他		

校区社協名		成美校下 社会福祉協議会
実施日		令和2年1月16日
実施方法		巡回訪問(グループワーク)
出席者		27名(校下連合自治会長、校下社協役員、福祉活動員、民生委員)
地域の特徴	文化・歴史	地子木町や五福町周辺に神社、寺が多く、古い町並みも残っている。
	コミュニティ・組織	校下内に各種団体があるが、校区社協との連携がとられている。
	インフラ	コミュニティバスが通っていたが廃止された。国道8号線、156号線など交通量の多い道路が校下内を通っている。
	その他	ケアネット活動につなげなくても地域の中で自然な見守りができている(防災・福祉マップを更新し活用されている)
地域の課題	空き家	空き家が多くなり、環境が悪い(ネズミが発生、除雪・除草がされないなど)
	ゴミ	
	買物	
	除雪	
	交通・移動	1日中バスを走らせなくてもいいので、コミュニティバスを午前中だけなど決めて走らせてほしい。
	経済	
	介護予防	色々な運動教室があるが、担い手が一緒である場合が多い
	生きがい	
	健康	
	医療機関	高齢者の通院のための足がない
	施設	
	認知症	認知症の人が増えてきている。ひとり暮らしの場合見守りが必要だが、負担も大きい。
	子育て	
	障がい	在宅に戻ってくる精神疾患の人もあるため、専門職によるフォローや事前に話し合っておくことも必要
ひきこもり		
その他	地域とのかかわりを拒否する人、親族への連絡を拒否する人など、個人情報ネックになる	
取り組み	認知症に対する取り組み ⇒成美小6年生への認知症サポーター養成講座の実施、ブロック別徘徊対応訓練の実施	
	ジュニア福祉活動員の活動 ⇒各サロンなどで交流の機会を持っている	
	福祉活動員の活動 ⇒オリジナルの福祉活動員ハンドブックの作成、ブロック別懇談会の実施	
市社協への意見・要望	・サロンの補助金を一律カットされると困る	
行政への意見・要望	・健康増進課で実施している事業の担い手を統一してほしい ・同じような運動教室を統一してほしい	
その他		

校区社協名	二上地区 社会福祉協議会	
実施日	令和2年2月27日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	8名(地区社協関係者)	
地域の特徴	文化・歴史	二上山と小矢部川に囲まれた自然豊かな地区。
	コミュニティ・組織	地区内に大学、企業、県の施設など集まっており、関係者で「まんしょう会」を組織している。
	インフラ	バス路線があり、1～2時間に1本走っている。路線上で手を挙げればバス停ではなくても止まってくれる。
	その他	
地域の課題	空き家	○
	ゴミ	ゴミの分別が難しい人がおり、集積所で分別している。オムツのゴミ出しが大変な人がいる
	買物	移動販売が来ている町内もあるが、少額だと気兼ねに感じ利用しない人もいる。
	除雪	○
	交通・移動	バス路線はあるが、1～2時間に1本で、利用率は低い。
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	
	医療機関	通院にタクシーを利用する人は、タクシー代がかさむため、通院しなくなる人がいる。
	施設	
	認知症	認知症の人が増えてきている。ゴミ出し、見守りなどの支援が必要な人もいる。
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	
その他	若い世代の担い手がいらない	
取り組み	各町内でふれあい・いきいきサロンの実施、体操教室を実施している町内もある	
	いのちのバトン全戸配布 ⇒ひとり暮らしの人は福祉活動員などが支援した	
	ケアネット活動 ⇒担い手が減ってきて、チーム数減少。地域全体で考えたい。	
市社協への意見・要望	・先進地の事例を聞きたい ・あつまり福祉ネット推進事業など、アイデアや支援	
行政への意見・要望	・行政の人も地域に密着し、効果が出るように考えてほしい	
その他	・人と人とのつながりができるようなイベントを企画し、担い手発掘につなげたり、気軽に寄れる場所があればよい。 ・近くに大学や企業があるため、連携して何かに取り組みたい	

校区社協名		伏木地区 社会福祉協議会
実施日		令和2年10月20日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		11名(地区社協役員、連合自治会、民生児童委員、福祉活動員等)
地域の特徴	文化・歴史	市の北部に位置し、海と山に囲まれた地区。国指定重要文化財である勝興寺がある。
	コミュニティ・組織	伏木曳山祭(けんか山)が有名で、地域住民は祭りに誇りを持ち、団結力や活気あふれる町。
	インフラ	伏木港には国内外の貨物船や大型客船が入港し、港をにぎわせている。
	その他	
地域の課題	空き家	○
	ゴミ	海洋ゴミ等の問題がある。
	買物	坂が多く、買い物が大変。農協がなくなり不便になった。買い物後、バス停から荷物を持って自分の家まで帰るのが大変という声がある。
	除雪	土日に市道の除雪がされずに困る
	交通・移動	加越能バスだけでは不便。福祉バスの運行を計画中。
	経済	
	介護予防	○
	生きがい	生きがいづくりとして、ふれあい・いきいきサロンや健康体操の実施などに取り組んでいる。
	健康	健康寿命を延ばすため、体操に力を入れていきたい。
	医療機関	
	施設	
	認知症	認知症高齢者の支援について考える研修会を企画した。
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	○
その他		
取り組み		ふれあいサロンを推進し、高齢者の交流に努めている。 老人クラブでは、コロナ禍でもパークゴルフ等、屋外で取り組むことのできる行事を実施している。 かたかごグループでは、月2回弁当を配布し、見守り活動も行っている。
市社協への意見・要望		・事業全体がマンネリ化しているので、見直しを行ってほしい ・あつかりとケアネットの違いがよく分からない。 ・地域の見守り強化や連携の意味でもケアネット事業を推進していきたい。
行政への意見・要望		・様々な施策があっても、土日に市道の除雪が来ないのであれば意味がない ・新規事業には予算もそれなりにつくが、年数が経つと減額さえてしまうのはおかしい。継続的な支援を望む。
その他		・福祉活動員の役割が全体に浸透していない。 ・民児協や自治会、福祉活動員が連携してうまく見守りができている地域もある。

校区社協名	戸出地区 社会福祉協議会	
実施日	令和2年7月28日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	12名(地区社協役員、連合自治会、民生児童委員、福祉活動員、福祉団体等)	
地域の特徴	文化・歴史	古い歴史を感じられる地区。毎年7月には「戸出七夕まつり」が開催される。
	コミュニティ・組織	地域福祉推進委員会(校区社協、連合自治会、民児協、健康・福祉団体等)が集まり、福祉に関する会議を実施している。
	インフラ	地区内を国道156号線が通っている。城端線戸出駅がある。
	その他	戸出7丁目自治会では70歳以上の住民調査を行い、結果を班長会議で共有した。
地域の課題	空き家	空き家・空き地の課題は自治会を通して連絡がある。
	ゴミ	
	買物	
	除雪	市社協で除雪ボラの登録をしているが、地域の誰がボランティア登録をしているかわからない。周知、PRも必要。
	交通・移動	免許を返納する人が多くなり、外出時の移動手段は何かないか。
	経済	
	介護予防	講演会を開催し、介護予防の意識啓発を行っている。
	生きがい	敬老の日を祝う集い、サロン交流会を実施している。運営者同士交流する機会を持っている。
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	健康講座や研修会を開催している。
	子育て	子どもが少ない。子育て支援事業をしているが、地区外の人参加可能にしている。
	障がい	
	ひきこもり	
その他	福祉というと高齢者に目が行きがちだが、若い世代が関わってもらえるような働きかけが必要。	
取り組み	あっさり福祉ネット推進事業 ⇒子育て支援事業、いのちのバトン(戸出オリジナルデザイン)	
	子育て支援事業 ⇒赤ちゃんにこにこ広場、親子料理教室、子どもまつり、児童センターへの支援等	
市社協への意見・要望	・サロンやケアネットのさらなる充実 ・ボランティアの人材育成や運営の支援や人材の把握	
行政への意見・要望	・活動の拠点となる公民館への支援 ・ひとり暮らし高齢者などの連絡手段の検討 ・個人情報への対応(相談時、災害時等)	
その他	コロナにより状況が変わってきているため、福祉も時代に合わせて変化が必要。Withコロナ、アフターコロナの福祉活動を検討してほしい。	

校区社協名	中田地区 社会福祉協議会	
実施日	令和元年12月23日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	12名(地区社協役員、民生児童委員等)	
地域の特徴	文化・歴史	ホテルの見られる美しい自然のある地区であり、県や市の指定記念物等見どころが多い。中田かかし祭り、地蔵まつりといった地域の行事も行われている。
	コミュニティ・組織	連合自治会で児童の登下校の見守りを行ったり、ボランティア団体の活動も実施されている。
	インフラ	路線バスがあるが、本数は少ない。
	その他	とくし丸が来ているエリアがある。
地域の課題	空き家	空き家はあるが、身内が管理、壊してくれるケースも多い。
	ゴミ	ゴミ出しができない高齢者に対して、ケアネット活動で支援しているケースがある
	買物	とくし丸を利用し買物をしている人がいる
	除雪	
	交通・移動	免許返納等で移動手段に困っていても、家族、ボランティアが支援しているケースが多く、表面化はしていない
	経済	
	介護予防	歩こう会や体操、地域の接骨院の体操など似たような活動があり、日が重なることがある
	生きがい	
	健康	高齢者が定期受診や健康診断を受診できているか
	医療機関	
	施設	
	認知症	
	子育て	児童の見守りを実施しているが、担い手の高齢化により存続の危機 地域に子どもが少ない
	障がい	
ひきこもり		
その他	人口が減り、未婚率が上がっている	
取り組み	ふれあい・いきいきサロン ⇒11か所で開催され、年1回サロンの交流会を実施している。 参加者が固定化され、男性参加者が少ないという課題もある。	
	ケアネット活動 ⇒民生委員が中心となり実施されているが、チーム員が高齢化している。 定例会で情報交換している。	
	三世代交流事業 ⇒かるた大会が実施され、練習の際などに地域と児童の交流の機会が持たれている。	
市社協への意見・要望	・あっかりやケアネット等、他校区と情報交換できる機会があるとよい ・ボランティア活動に携わる人を増やす方策を示してほしい	
行政への意見・要望	・助成金などこれ以上減額しないでほしい	
その他	・未婚率が上がっていることから、社協で婚活イベントをしてはどうか。ボランティア活動などをきっかけにすることで、担い手の発掘にもつながり、少子化を食い止めるきっかけになるのでは。	

校区社協名	能町校下 社会福祉協議会	
実施日	令和元年10月17日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	13名(校下社協役員、連合自治会長、民生委員等)	
地域の特徴	文化・歴史	吉久の方では、さまの通りの歴史ある町並みが見られる。
	コミュニティ・組織	福祉活動員や民生児童委員、自治会が協力してふれあいいきいきサロンを開催している。能町っ子見守り隊の活動を継続しており、見守り隊の活動の際にひとり暮らしの方へも声かけをしている。
	インフラ	校区内を万葉線(路面電車)が走っている。イオン高岡店まで通っていたコミュニティバスは廃止となった。
	その他	商業施設(イオン高岡店、ドラッグストア、スーパーがある)、医療機関が充実している。
地域の課題	空き家	空き家や空き地の除草ができていないところがあり、虫が出たり、危険な状態。
	ゴミ	
	買物	
	除雪	大雪の時は除雪機が間に合わないこともあり、自治会と協力して行った。
	交通・移動	万葉線はあるが、コミュニティバスが廃止となり、利用していた人は移動に困っている。
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	うつ病などの病気かなと思うときに対応に困ることがある。
	医療機関	
	施設	
	認知症	認知症の方への関わりに悩む場合がある。
	子育て	
	障がい	
ひきこもり		
その他	担い手(福祉活動員の高齢化、サロンの後継者がいない)	
取り組み	命のバトンの全戸配布 (自治会を通じて配布しており、追加となっている世帯へも追加で配布している。見守りのきっかけづくりになる)	
	情報共有・関係機関との連携 (地域の福祉課題を発見し、自治会、民生児童委員、各関係機関と解決に向けて協力する)	
	ケアネット活動の普及 (現在1町内で実施している活動を他の町内でも実施できるよう広めていく)	
市社協への意見・要望	・福祉活動員の役割が分かりづらいため研修会を実施してほしい ・集まって意見交換できる場があったらよい。	
行政への意見・要望		
その他	JAや信金などの金融機関が統廃合し、校下から撤退して困っている。	

校区社協名		牧野校下 社会福祉協議会
実施日		令和2年11月18日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		14名(校下社協役員、連合自治会、民児協、老人クラブ等、包括)
地域の特徴	文化・歴史	高岡市の他自治会とは庄川を挟んでおり、射水市(新湊)に隣接する場所に位置している。新興住宅地があり、若い世代が増えている。
	コミュニティ・組織	新興住宅地も多く、児童数が増加している。自治会中心に福祉活動に理解がある。地理、歴史的にも射水市新湊地区との繋がりが強く、射水市コミュニティバスの運行エリアにも入っている。
	インフラ	牧野地区と能町地区、さらに国道160号を結ぶ庄川橋梁「牧野大橋」が完成し、高岡市エリアとのアクセスが便利になった。
	その他	
地域の課題	空き家	
	ゴミ	
	買物	
	除雪	
	交通・移動	
	経済	
	介護予防	
	生きがい	福祉センターの人員削減や廃止は高齢者の拠り所がなくなってしまう。
	健康	
	医療機関	
	施設	福祉センターの人員削減や廃止は高齢者の拠り所がなくなってしまう。
	認知症	
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	
その他	福祉活動員のなり手不足、民生委員と福祉活動員の連携にも地域で格差がある。	
取り組み		命のバトン配布(自治会単位に依頼しているが、名簿との照合や更新等がうまくいっていない。自治会によって温度差もある。)
		サロンでの送迎支援(自治会によっては保険加入)
		空き家対策としては特段の取り組みはしていないが、樹木の繁茂については家主と連絡をとり、伐採している。
市社協への意見・要望		社協会費のあり方、共同募金の集め方
行政への意見・要望		老人福祉センターの人員保持、施設運営保持
その他		

校区社協名	野村地区 社会福祉協議会	
実施日	令和元年11月8日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	11名(地区社協役員、連合自治会、民生児童委員等)	
地域の特徴	文化・歴史	地域の神輿祭りなど伝統行事を大切にしている。
	コミュニティ・組織	市内で一番人口が多い地区であり、新興住宅も多い。地区のつながりがあって、住民の人柄がよい。地区から4つの小学校(野村、能町、下関、定塚)へ通っている。
	インフラ	幹線道路が通っている。その分交通量が多い場所がある。
	その他	地区内にスーパー、医療機関がある。
地域の課題	空き家	○
	ゴミ	自治会に加入しない世帯があり、ゴミ出しに関するルールが共有できない。
	買物	地区内にスーパーがそろっているが、高齢者で買物に困っている人がいる。
	除雪	○
	交通・移動	バス路線が不足しているという意見がある。
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	○
	医療機関	
	施設	人口に対して公共施設が少ない。併せて避難場所が不足する。水害時には浸水する場所にある。
	認知症	認知症により徘徊する人が心配 ⇒徘徊模擬訓練を実施した
	子育て	子育て世帯が増えているが、子供向けイベントが少ない。
	障がい	
	ひきこもり	高齢者で外出していない閉じこもりの人がいる。(移動手段がないため)
その他	担い手(後継者をどのように育成していくか)	
取り組み	ひとり暮らし高齢者宅への宅配弁当 ⇒見守りも兼ねて実施	
	学童クラブへの夏休み弁当提供 ⇒夏休みに3回手作り弁当を提供し、子育て世帯の負担軽減につなげる	
	ふれあい・いきいきサロンの実施 ⇒公民館のない町内以外ではサロンを実施されている。介護予防の取り組みも実施している。	
市社協への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・地区担当(2名体制)を継続してほしい。 ・子育てに関する支援やイベントを実施してほしい。 ・災害時における対応マニュアルが必要。 	
行政への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉部門だけでなく、統合できる事業は統合してほしい。 ・個人情報について柔軟に対応してほしい。 ・子育て支援の場所を増やしてほしい。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の中で高齢者食堂や子ども食堂のように世代間交流ができるイベントがあるといい。 	

校区社協名	二塚校下 社会福祉協議会	
実施日	令和2年8月6日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	14名(校下社協、連合自治会、民児協、老人クラブ等)	
地域の特徴	文化・歴史	地区の中に大型商業施設や総合病院がある一方、田園地帯が広がるのどかな地区で、歴史史跡がある。
	コミュニティ・組織	老人クラブ等でも見守りをしているため、友愛訪問と重複がある。
	インフラ	JRの駅が複数ある。
	その他	転入・転出があまりない地域なので昔ながらの顔なじみの関係ができています。
地域の課題	空き家	地区内に空き家がある
	ゴミ	家庭ごみを田んぼや川に捨てる人がいる。
	買物	大型商業施設はあるが、気軽に行けるような店がありません
	除雪	
	交通・移動	JRの駅はあるが、ホーム2か所ある駅では階段の昇降が大変そう。
	経済	
	介護予防	公民館でスマホ教室を実施予定
	生きがい	公民館でスマホ教室を実施予定
	健康	病気がちな高齢者が班の役ができない。新しい班はあまり理解が得られない。
	医療機関	
	施設	
	認知症	認知症、ひとり暮らしが増えてきており、支援する側が大変
	子育て	
	障がい	障がい者の施設が少ない
	ひきこもり	
その他	色々な人が見守りをしている一方、必要な人に見守りが行き届いていない。	
取り組み	見守り活動 ⇒社協・民生委員・福祉活動員で年3回訪問。老人クラブでも年6回訪問	
	あつかり福祉ネット推進事業 ⇒福祉活動員ジャンパー作成、いのちのバトン全戸配布	
市社協への意見・要望	・名称だけでは事業の違いがわからない。わかりやすい事業にしてほしい。	
行政への意見・要望	・行政や教育機関の福祉事業への積極的な関わり ・広報誌の工夫が必要ではないか	
その他		

校区社協名		佐野地区 社会福祉協議会
実施日		令和2年2月21日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		校区社協、民生委員児童委員、自治会長
地域の特徴	文化・歴史	庄川扇状地の伏流水に恵まれた地区であり、豊富な水を活用した田園が広がる
	コミュニティ・組織	南条小学校は佐野地区と福田地区から通学している
	インフラ	南北に国道156号線が走っている。
	その他	地区内にあるおとぎの森公園は、佐野地区の住民だけでなく、子どもから高齢者まで市民の憩いの場となっている
地域の課題	空き家	空き家が増え、連絡先がわからないところがある。空き地の除草がされていない。
	ゴミ	指定時間外や分別されていないゴミ出しがある
	買物	一部とくし丸が来ている町内もあるが、高齢者が自由に買い物できる移動販売があるとよい
	除雪	小学生の通学路の除雪
	交通・移動	泉が丘のデマンドタクシーは利用が少なかった。今まであったバス停がなくなった。
	経済	
	介護予防	○
	生きがい	
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	
	子育て	子どもが少なく、習い事などでも忙しく、ジュニア福祉活動員の活動にも参加が難しい。子どもを通じて横のつながりがあったが、子どもが減りつながりも減った。
	障がい	高齢者のうつ病などもあり、対応に困る場合がある
ひきこもり	8050世帯が出てきている	
その他	・人口が減り、若い人が少なくなっている。独身の人も増えている。 ・高齢者が多くなり、担い手が不足する	
取り組み		ジュニア福祉活動員との友愛訪問 ⇒南条小学校児童との訪問活動を実施している
		ひとり暮らし高齢者への弁当配達 ⇒民生委員等と実施
		福祉マップの作成、いのちのバトンの配布 ⇒あつまり福祉ネット推進事業で実施
市社協への意見・要望		・他校区での実施事例の情報提供をしてほしい ・老人クラブでも見守りをしているので、ケアネット活動と連携することはできないか
行政への意見・要望		・高齢者の移動手段を充実してほしい ・地区や自治会でどうすることもできない放置状態の空き家を改善してほしい
その他		・外国人の方も含めて考える必要があるのではないか。

校区社協名	福田地区 社会福祉協議会	
実施日	令和2年9月18日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	11名(地区社協役員、自治振興会、民児協、福祉活動員等)	
地域の特徴	文化・歴史	古代遺跡がある歴史豊かな地区。
	コミュニティ・組織	福田地区と佐野地区から南条小学校へ通学しており、高学年はジュニア福祉活動員の活動をしている。多くの町内で獅子舞などの行事が残っている。
	インフラ	地区内を高岡環状線が通っている。
	その他	災害があまりおこらない地域ではあるが、避難所が遠い。
地域の課題	空き家	動物(イタチやタヌキ)が住み着いたり、木・雑草が繁茂するなど環境に悪影響がある。耕作放棄地は営農中心に除草剤をまいている
	ゴミ	不燃ごみが収集後残っていたため自治会で防犯カメラを設置、不法投棄の看板を設置している。
	買物	○
	除雪	○
	交通・移動	送迎がないとサロンに参加できない人がいる。
	経済	
	介護予防	運動教室や健康相談、講演会などを実施している
	生きがい	○
	健康	○
	医療機関	○
	施設	
	認知症	○
	子育て	○
	障がい	
	ひきこもり	情報が見えづらく、隠される。回覧板等で仕事や講演会など情報提供があるといい。
その他	ひとり暮らしの増加、高齢化、未婚などで担い手が不足している。	
取り組み	ふれあい・いきいきサロンの実施 ⇒多くの人に参加してもらえるように個別にも案内している	
	ジュニア福祉活動員の活動 ⇒児童が忙しく、参加する人は少なくなってきたが、友愛訪問など老若双方によい影響がある	
	ケアネット活動 ⇒もっと増やしていけたらよい	
市社協への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・時代に応じた情報をタイムリーに発信してほしい(コロナ禍での活動など) ・福祉活動員の役割を明確化してほしい 	
行政への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が元気になれるような施策を行ってほしい ・子育て支援の取り組み ・地域に合った取り組み 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活事業を実施してはどうか ・若い世代(ニートなど)働ける場所の情報を発信してほしい 	

校区社協名		小勢地区 社会福祉協議会
実施日		令和2年11月10日
実施方法		ヒアリング
出席者		5名(地区社協会長、公民館長、公民館事務員、包括)
地域の特徴	文化・歴史	田園風景広がる長閑な農村地
	コミュニティ・組織	地域のつながりが強い。
	インフラ	小勢バス巡回
	その他	
地域の課題	空き家	
	ゴミ	
	買物	とくし丸進出に伴い、小勢バス利用者減少
	除雪	雪捨て場がない
	交通・移動	小勢バス利用者減少傾向
	経済	
	介護予防	
	生きがい	サロン実施数が増えない。
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	
その他		
取り組み		サロン、ケアネット
		小勢バス運行
市社協への意見・要望		サロン助成金の増額
行政への意見・要望		似たような事業が多い
その他		

校区社協名		立野地区 社会福祉協議会
実施日		令和2年11月27日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		7名(地区社協役員、包括)
地域の特徴	文化・歴史	小矢部川右岸に位置し、旧北陸道の街並みを中心に開け加賀藩時代は宿場町として栄えた。
	コミュニティ・組織	
	インフラ	国道8号線と旧北陸道が交差する地域。
	その他	
地域の課題	空き家	
	ゴミ	
	買物	生協利用者多く、とくし丸も来ているようだが、知らない人も居る。
	除雪	
	交通・移動	
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	
その他	民生委員、福祉活動員のなり手不足。自治会規模が小さく、役員選出が困難。	
取り組み	防災福祉マップの作成、年1回の更新	
	ひとり暮らし高齢者への弁当配達(今年度はコロナで手作りは困難だったため、既製品の乾物や栄養補助食品、レシピの配布実施)	
市社協への意見・要望		次年度、校下の地域福祉活動計画策定予定であり、支援お願いしたい。 福祉活動員の1年毎に交代する自治会もあり、役割や活動例の説明をして欲しい。 支所の本所への統合(他地区への支援強化)
行政への意見・要望		
その他		

校区社協名		東五位校下 社会福祉協議会
実施日		令和2年7月10日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		9名(校下社協役員、行政、包括)
地域の特徴	文化・歴史	令和2年4月～は旧東五位小学校が閉校となり、市内初の小中一貫の国吉義務教育学校が設立された。
	コミュニティ・組織	二世帯、三世帯同居世帯多い。人口、子供の数も増えているが、地域格差も激しい。
	インフラ	国道沿い、JR西高岡駅あり。
	その他	
地域の課題	空き家	
	ゴミ	
	買物	
	除雪	
	交通・移動	ボランティア活動保険に加入しているが、サロンや敬老会での送迎が不安
	経済	
	介護予防	
	生きがい	コロナ禍で集まる機会減っている。
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	
その他	社協会長や民生委員等、地域福祉の担い手が現役であり多忙。	
取り組み		サロンの中で参加者の特技を活かした活動を実施している。
		月1回の広報誌編集会議時に社協の役員で集まり情報共有図っている。
市社協への意見・要望		サロン助成金の改善
行政への意見・要望		地区内の研修でも市の福祉バスを借りたい。
その他		

校区社協名		石堤地区 社会福祉協議会
実施日		令和2年11月12日
実施方法		ヒアリング
出席者		5名(地区社協役員、包括)
地域の特徴	文化・歴史	市内で2番目に人口規模が小さい校区。自然豊かで田園風景が広がる。 令和2年4月～は旧石堤小学校が閉校となり、小中一貫の国吉義務教育学校が設立された。
	コミュニティ・組織	
	インフラ	
	その他	
地域の課題	空き家	自治会中心で所有者の把握に努めている。
	ゴミ	外国人が複数人で住んでいる世帯が1世帯だけあり、分別が難しそう。
	買物	スーパーほしほの巡回バス、とくし丸、十勝牛乳の移動販売もあり、隣近所同士で買い物の送迎支援はされているが、5～10年後のことを考えると課題もある。
	除雪	現在は隣近所で自然な形で支援できているが、5～10年後には支援者側も高齢となり支援困難になりそう。
	交通・移動	厚生連バスのダイヤが少なく不便。
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	
	医療機関	林整形へは送迎バスがあり利用者多いが、厚生連行きのバスダイヤが少なく利用しづらい。
	施設	
	認知症	
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	
その他	車の免許返納後、電動車を利用する高齢男性多いが、交通マナーが悪く危険。	
取り組み		自然な形での見守り、除雪、買い物支援。
		空き家の所有者把握。
市社協への意見・要望	市社協事業への動員数の軽減。	
行政への意見・要望		
その他		

校区社協名		国吉校下 社会福祉協議会
実施日		令和2年11月5日
実施方法		ヒアリング
出席者		5名(校下社協役員、包括)
地域の特徴	文化・歴史	自然豊かで田園風景が広がる地域。令和2年4月～旧国吉小中学校が閉校となり、市内初の小中一貫の国吉義務教育学校が設立された。
	コミュニティ・組織	市営住宅世帯への見守り体制が不十分
	インフラ	
	その他	
地域の課題	空き家	
	ゴミ	
	買物	○
	除雪	
	交通・移動	○
	経済	
	介護予防	
	生きがい	○
	健康	
	医療機関	校下内に医療機関がなく、健康不安を感じている。
	施設	
	認知症	
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	
その他	他校下では小学生を対象にした認知症サポーター養成講座実施しているが、国吉校下では未実施。	
取り組み		三世代交流や食育を目的としたふれあい食堂の実施(年3回)。
		福祉マップの定期的な更新(ただし、自治会関係者が参画しておらず情報共有できていない)。
		とくし丸の情報提供
市社協への意見・要望		・ケアネット記録の簡略化。 ・子供だけでなく親世代も含む福祉教育(ボランティア活動)の機会創出
行政への意見・要望		・福祉活動のPR方法の工夫
その他		

校区社協名		守山地区 社会福祉協議会
実施日		令和2年11月25日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		5名(地区社協役員)
地域の特徴	文化・歴史	自然に恵まれた地域であり、きれいな川が流れ、ホテルもみられる。
	コミュニティ・組織	老人クラブはあるが、役員の担い手がいなくなっている。婦人会は解散した。
	インフラ	地区内に高岡北インターがある。五十里のバス路線が廃止となる。
	その他	畑や田んぼが多い田園地帯と住宅地がある地区。
地域の課題	空き家	
	ゴミ	
	買物	地区内にスーパーがなく、コンビニ2軒のみ。地区外のスーパーからの送迎バスや移動スーパーを利用している。
	除雪	
	交通・移動	バス路線が無くなる地区がある。免許証返納する高齢者も出てくるため、検討が必要。
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	
	子育て	
	障がい	障がいの子(小学生)がいる世帯があったが地域が自然に見守りや声かけをしていた。
	ひきこもり	
その他	未婚の人が増えている。担い手の高齢化。	
取り組み	ふれあい・いきいきサロンの実施 ⇒11町内のうち9町内で実施がされている。コロナで集まったの開催が難しい。	
	いのちのバトンの配布、更新 ⇒敬老会の案内の際に年1回いのちのボタンについて声をかけ思い出してもらおうきっかけとしている。	
	福祉活動員の研修会 ⇒サロンの運営者の情報交換の機会を持っている	
市社協への意見・要望	・ケアネットの記録が大変(負担の内容にチーム員に声かけしている)	
行政への意見・要望	・高齢福祉推進員になっていてもあまり見守りしていない人がいる。	
その他		

校区社協名	太田校下 社会福祉協議会	
実施日	令和元年12月12日	
実施方法	巡回訪問(意見交換)	
出席者	10名(校下社協役員、包括)	
地域の特徴	文化・歴史	海越しの立山連峰が見られ、雨晴海岸、義経岩など海沿いの自然豊かな地区。
	コミュニティ・組織	ボランティア団体が多く活動している(大師ヶ岳の会、野の花グループ、健康づくり推進懇話会、赤十字奉仕団など)
	インフラ	JR氷見線、路線バスが通っている。
	その他	市街化調整区域に指定されており、新しい住宅が建てられないため、新たな人材が転入してこない。
地域の課題	空き家	空き家が増えている。
	ゴミ	
	買物	地域の中にスーパーがなく商店があるだけだが、何とかしている。 配食サービスは、市内の業者で太田まで配達してくれるのは1社のみ
	除雪	近隣で協力してできているが、敷地が広く宅道が長い家も多く大変。
	交通・移動	バスが2時間に1本なので、移動手段が少ない。
	経済	
	介護予防	要介護者を増やさない(元気な高齢者を増やす)ために介護予防の取り組みは重要
	生きがい	
	健康	健康づくり推進懇話会で月1回程度の体操を実施している。
	医療機関	
	施設	太田休養村の閉鎖により、集まれる施設が減る。
	認知症	家族が認知症を隠して、包括などに相談が入る頃には重度化している場合がある。 過去に徘徊模擬訓練を実施したことがあるが、毎年や隔年で実施できたらよいのでは。
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	
その他	人の動きが少ないため、若い世代も入ってこない。いずれ担い手不足になる。	
取り組み	ひとり暮らし高齢者への配食 ⇒野の花グループで手作りの弁当を約20～25名に配達し、回収を民生委員が行うことで見守りも兼ねて実施。	
	ケアネット活動、サロン ⇒申請が上がっている以外にも自然な形で見守りや支援ができているところもある	
	健康づくりの取り組み ⇒月1回程度健康づくり推進懇話会で体操を行っている	
市社協への意見・要望	・内容が似ている事業が多い(サロン、はつらつ広場、筋力アップ教室等)整理したうえでメニュー化してほしい。似たような事業を合同でできれば、人材不足も軽減できる。	
行政への意見・要望	・健康づくり推進員の看板も作成してもらえなくなったが、担い手の意識向上(やる気アップ)のため作成してほしい	
その他	・事業を整理することで、ボランティアしやすい体制づくりができるとよい ・教室、サロンなどに男性が参加できる取り組みを検討したい	

校区社協名		福岡町地域 社会福祉協議会
実施日		令和2年8月26日
実施方法		巡回訪問(意見交換)
出席者		5名(地区社協役員、包括)
地域の特徴	文化・歴史	平成17年～高岡市に統合。
	コミュニティ・組織	
	インフラ	国道8号線沿いであり、あいの風鉄道福岡駅がある。
	その他	
地域の課題	空き家	
	ゴミ	
	買物	
	除雪	
	交通・移動	暮らしのサポートセンターの協力者が減少傾向
	経済	
	介護予防	
	生きがい	
	健康	
	医療機関	
	施設	
	認知症	老々介護が増えている。
	子育て	
	障がい	
	ひきこもり	コロナ禍でサロン等の外出機会がなくなった。
その他	個人情報保護の関係で民生委員でさえ、情報が入手しきれない。	
取り組み		暮らしのサポートセンター
		鍵預かりサービス
市社協への意見・要望		<ul style="list-style-type: none"> 自治会を中心とした組織づくり(小規模多機能自治) 暮らしのサポートセンター、鍵預かり、生活困窮者事業を各校区に広げるための周知や立ち上げ支援。 ・地区担当制の充実
行政への意見・要望		<ul style="list-style-type: none"> サロンやあつまり事業の予算増額や回復・役職のコンパクト化 顔を見ながら話せるオンラインシステムの構築 福岡地域でも利用できる「食の自立支援サービス」事業者の充実
その他		

第3次高岡市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設置目的)

第1条 高岡市における地域福祉の推進を目指し、第3次高岡市地域福祉活動計画を策定するために、第3次高岡市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、第3次高岡市地域福祉活動計画の策定に必要な事項について検討し、計画案を取りまとめ、社会福祉法人高岡市社会福祉協議会（以下「本会」という。）会長に提言する。

(組織)

第3条 委員会は、委員10数名をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げる者の中から本会の会長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 行政機関関係者
- (3) 地域団体関係者
- (4) 当事者団体関係者
- (5) ボランティア団体関係者

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、活動計画の策定をもって終了する。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を統括し、代表する。

3 委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代理する。

(運営)

第7条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を出席させて、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、本会の事務局において行う。

(作業部会)

第9条 計画作成の基礎資料収集や実態把握等を行い、計画の素案を作成する作業部会を設置する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和2年12月16日から施行する。

第3次高岡市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

(敬称略・五十音順)

区分	氏名	役職名	備考
地域活動団体	浦田 一郎	高岡市連合自治会長	
福祉関係団体	京紺 外志美	高岡市身体障害者協会長	
福祉関係団体	米澤 陽子	地域女性ネット高岡会長	
ボランティア団体	河合 博子	高岡市ボランティア連絡協議会長	
福祉関係団体	小山 智克	高岡市老人クラブ連合会長	
行政機関	山本 真弘	高岡市福祉保健部次長	
福祉関係団体	新納 耕一	高岡市社会福祉協議会副会長	
学識経験者	関 好博	富山短期大学健康福祉学科 教授	委員長
福祉関係団体	永山 樹	社会福祉法人 たかおか万葉福祉会理事長	
福祉関係団体	山本 央子	高岡市母子寡婦福祉会長	
福祉関係団体	吉川 重治	高岡市民生委員児童委員協議会長	

第3次高岡市地域福祉活動計画策定委員会作業部会名簿

氏名	所属	備考
竹田 裕子	高岡市社会福祉課 副課長	アドバイザー
古野 智也	事務局次長・地域福祉課長	
田畑 吉史	地域福祉課 係長	
横山 亜弥	” 主事	
青嶋 静佳	” 主事	
大橋 乃梨子	” 主事	
斉藤 弥生	” 主事	
山本 幸恵	呉西地区成年後見センター 主事	
千野 珠貴	総務課 課長	
田畑 美樹	” 係長	
藤田 泰裕	” 主事	
本田 清徳	福岡支所 主任	
本田 真裕	ボランティアセンター 主事	
山岸 由美子	社協特定相談支援事業所 係長	
堂谷内 智子	社協居宅介護支援高岡事業所 所長	
坂本 恭子	博労・川原地域包括支援センター 係長	
若林 茂	社協デイサービスセンター 主任介護士	
三谷 里美	社協ホームヘルパーステーション サービス提供責任者	

第3次 高岡市地域福祉活動計画

発行 令和3年10月
編集・発行 社会福祉法人高岡市社会福祉協議会
〒933-0866
高岡市清水町1丁目7番30号
TEL 0766-23-2917 / FAX 0766-26-2379
E-mail info@takaoka-shakyo.or.jp

福岡支所
〒939-0132
高岡市福岡町大滝22（福岡健康福祉センター内）
TEL 0766-64-8114 / FAX 0766-64-8053
E-mail fukuoka.branch@takaoka-shakyo.or.jp



社会福祉法人高岡市社会福祉協議会

